

第4次基本計画第2次改定に向けた

「みたか

まちづくりディスカッション」

実施報告書



令和2年2月

第4次基本計画第2次改定に向けた「みたかまちづくりディスカッション」実行委員会

はじめに

この報告書は三鷹市市民協働センターを運営する NPO 法人みたか市民協働ネットワークと三鷹市が実施に関するパートナーシップ協定を締結して実施した「第 4 次基本計画第 2 次改定に向けたみたかまちづくりディスカッション」の結果を集計・分析し、同じ時期に行なわれた多様な方法により出された市民意見とともに、次の計画素案への反映を検討することを目的にまとめたものです。

運営を公平・公正に行うために、市民コーディネーターの皆様 31 人で構成した実行委員会形式で運営にあたりました。

今回の「みたかまちづくりディスカッション」は三鷹市「第 4 次基本計画」の第 2 次改定に向けて、市民の皆さんのご意見を聞く取り組みの一環として 11 月 2 日(土)・3 日(日)の 2 日間で開催されました。

これは第 4 次三鷹市基本計画第 2 次改定(1 次案)に対して市民意見をお聞きする市民参加の取り組みの中でも中心的な本事業を、行政主導ではなく市民主体の実行委員会形式で行うために協定を締結して協働で取り組んだものです。「まちづくりディスカッション」は、平成 18 年度から実績を積み重ねてきた「無作為抽出による市民討議会」形式の手法です。この手法の特徴は、市民参加の経験がなかった方を含めたより広範で多種多様な市民の方々が参加できる点にあります。今回 82 人の参加者が 2 日間にわたって市が重要だと考える 3 つのテーマについて話し合いました。

この話し合いは大変有意義であったと考えております。市民自治による協働のまちづくりがさらに推進されるものであり、多くの意見が取りまとめられています。

ぜひ、今後の行政施策の参考にしていただきますようお願いいたします。

当日参加いただきました市民の皆様、運営に当たられた市民コーディネーターの皆様やその関係団体の皆様、行政関係者の皆様と多くの方々にご協力をいただきましたことをお礼申し上げます。

2020 年 2 月

「第 4 次基本計画第 2 次改定に向けた

みたかまちづくりディスカッション」実行委員会

実行委員長 吉田 純夫

目次

はじめに

目次

第1章	第4次三鷹市基本計画第2次改定に向けた 「みたかまちづくりディスカッション」……………	2
I	目的	
II	位置付け	
III	本番当日のスケジュール	
第2章	話し合いの方法、分析の方法及び話し合いの結果……………	7
I	「まちづくりディスカッション」の話し合いの方法	
II	分析の方法	
III	話し合いの結果	
	テーマA	
	テーマB	
	テーマC	
第3章	「まちづくりディスカッション」の評価と検証……………	33
I	評価と検証（プログラム編）	
II	評価と検証（運営編）	
第4章	第4次三鷹市基本計画第2次改定「1次案」に係る 市民意見への対応について……………	37
第5章	資料編……………	47
I	各テーマ別の話し合いの結果（話し合いのシート）	
II	アンケート結果	
III	参加者統計	
IV	「まちづくりディスカッション」の実施に関わる資料	
V	「広報みたか」掲載記事	
編集後記に代えて	～スタッフからのメッセージ～……………	90

第1章 第4次三鷹市基本計画第2次改定に向けた「みたかまちづくりディスカッション」

I 目的

無作為抽出により選ばれた市民による市民討議会「みたかまちづくりディスカッション」は、平成18（2006）年に自治基本条例の「パートナーシップ協定」の規定に基づき、三鷹青年会議所と市が協定を締結して、行政が主催者となる形では、全国初の無作為抽出による市民討議会の開催となった。その後も、市の総合計画である基本計画の策定・改定時に実施するとともに、東京外かく環状道路の整備に伴う北野の里（仮称）のまちづくりに関することや、市庁舎・議場棟等建替えに関するることなど、多岐に渡る分野において、幅広い市民の意見を聞く場として三鷹方式の「まちづくりディスカッション」を活用している。いずれの開催においても、参加した市民の高い満足度が数値として示されており、まちづくりに参加したいという機運の向上につながっている。今回の第4次基本計画（第2次改定）においても、多様な市民参加手法の一つとして、引き続き積極的に取り組むことが示された。

今回の「まちづくりディスカッション」でも、これまで市民参加の機会や経験のなかった方に対しても幅広く耳を傾け、その声を基本計画に反映させることを目的とし、行政主導ではなく、公平・中立な運営とするため、市内大学生も含めた市民で構成する実行委員会形式で行い、市民の視点に立った討議テーマ等の検討から当日の運営等幅広く実施した。

II 位置付け

1 第4次基本計画（第2次改定）の期間

第4次基本計画は、2010（平成23）年度から2022（令和4）年度とする12年間の計画であり、市長選挙に合わせて4年に1度改定することとなっているため、今回の第2次改定では、2019（令和元）年度からの4年間を対象期間としている。ただし、今後の基本構想の改定および第5次基本計画の策定を見据えるなど、中長期的な視点を盛り込んだ計画としている。

2 第4次基本計画（第2次改定）における市民参加の取り組み

市では、第4次基本計画（第2次改定）に向けた市民参加として、令和元（2019）年9月に確定した「1次案」に対して、市民の意見を聴取する機会を設けた。

第4次基本計画（第2次改定）における市民参加の手法は、①「広報特集号による市民アンケート」、②「エリア別・テーマ別ワークショップ」、③「まちづくりコメント」、④「まちづくりディスカッション」、⑤基本計画2次案に対して行う「パブリックコメント」とし、より多くの市民の意見を得るための機会を設けた。

◆ エリア別・テーマ別ワークショップ

7つの住区ごとに行う「エリア別ワークショップ」と、4つのテーマごとに行う「テーマ別ワークショップ」の2種類のワークショップを開催した。

どちらのワークショップも、市民だけでなく、「在勤の市民」として市若手職員も加えた1グループ5人程度で行い、第4次基本計画の第2次改定にとどまらず、将来のまちづくりについてなど、幅広く議論を行った。

令和元年10月14日（月・祝）から10月26日（土）までに開催し、合計141人の市民が参加した。

◆ 広報特集号による市民アンケート

令和元年10月13日に「広報みたか第4次基本計画第2次改定（1次案）特集号」が発行され、全戸配布された。広報特集号にアンケートを折り込み、基本計画1次案について、施策の体系や主要事業などに関する市民アンケートを行った。

今回のアンケート調査では、2,319通の返信があり、提出された意見は2,893件に及んだ。これらの意見については、他の市民参加と合わせ、基本計画や個別計画の2次案への反映を図るために検討が行われた。

◆ まちづくりコメント

まち歩きイベント「みたか太陽系ウォーク」が開催された、令和元年9月20日（金）から10月27日（日）の期間に、「みたか太陽系ウォーク」と連動し、スタンプを集めながら発見したまちの「気付き」について、ウェブアンケートを行い375件の意見があった。

Ⅲ 本番当日のスケジュール

1 スケジュール

1日目

【第1日目】2019年11月2日(土) 午後1時～午後4時30分		
13:00～14:05	65分	主催者あいさつ まちづくりディスカッションについて 基本計画改定の基本的な考え方について 各テーマの会議室へ移動
14:20～14:40	20分	【情報提供①】三鷹市の現状について
14:40～15:00	20分	話し合いの進め方の説明
15:00～16:00	60分	第1回 話し合い
16:00～16:20	20分	第1回 話し合いの発表と投票
16:20～16:30	10分	結果発表と明日に向けての事務連絡
16:45～17:30	45分	交流会(自由参加)

2日目

【第2日目】2019年11月3日(日) 午前10時～午後5時		
10:05～10:35	30分	【情報提供③】各テーマの有識者からの情報提供
10:35～11:35	60分	第2回 話し合い
11:35～11:55	20分	第2回 話し合いの発表・投票
11:55～12:45	50分	昼食
12:45～13:45	60分	第3回 話し合い
13:45～14:05	20分	第3回 話し合いの発表・投票
14:05～14:20	15分	休憩と会場移動
14:20～14:40	20分	【情報提供④】三鷹市の情報提供
14:40～14:55	15分	休憩と会場移動
14:55～15:55	60分	第4回 話し合い
15:55～16:15	20分	第4回 話し合いの発表・投票
16:15～16:30	15分	休憩と会場移動
16:30～16:50	20分	各テーマの概括と今後の日程等について (手上げアンケート)
16:50～17:00	10分	閉会あいさつ

2 第4次三鷹市基本計画第2次改定に向けた「みたかまちづくりディスカッション」プログラム

13:00 ↓ 14:05	主催者あいさつ みたかまちづくりディスカッションについて【情報提供者:実行委員長】 第4次三鷹市基本計画第2次改定の基本的な考え方【情報提供者:三鷹市】		
テーマ	A あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり	B 互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり	C 周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり
1日目 14:20 情報提供 14:40	【三鷹市の現状】 「三鷹市のICT戦略」 (企画部情報推進課長)	【三鷹市の現状】 「多様な市民との共生」 (企画部調整担当部長)	【三鷹市の現状】 「まちづくりにおける周辺環境への配慮」 (都市整備部都市計画課長)
15:00 小テーマ① 16:00	日常生活でほしい情報とは、どのようなものでしょうか？	さまざまな人が共に生活する「共生のまち」とは、どのようなまちでしょうか？	「高環境」と聞くと、どのような環境が良い(高い)と考えますか？
2日目 10:05 情報提供 10:35	亜細亜大学 岡村久和教授 「情報とは何か」	文部科学省大臣官房会計課長 木村直人氏 「共生の取り組み」	芝浦工業大学 鈴木俊治教授 「心地よい都市空間のつくりかた」
10:35 小テーマ② 11:35	ほしい情報が手に入らないのは、どのような時で、なぜでしょうか？	「共生のまち」を実現するために、足りないものや課題はどのようなものがあると思いますか？	「暮らしやすいまち」、「心地よいまち」とは、どのようなまちをイメージしますか？
12:45 小テーマ③ 13:45	ほしい情報は、どのような工夫があるといつでも手に入りやすいと思いますか？	「共生のまち」を実現するために、どのようなことができるでしょうか？	「暮らしやすいまち」、「居心地がよいまち」を実現するため、どのようなことをしていくと良いと思いますか？
14:20 ↓ 14:40	第4次三鷹市基本計画第2次改定における「防災・減災のまちづくり」の考え方【情報提供者:三鷹市長】		
14:55 小テーマ④ 15:55	あらゆる人に情報が行き渡るために、基本計画に盛りこんだ方が良いアイデアをまとめてください。	互いに助け合えるまちづくりを進めるために、基本計画に盛りこんだ方が良いアイデアをまとめてください。	周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくりに向けて、基本計画に盛りこんだ方が良いアイデアをまとめてください。

第2章 話し合いの方法、分析の方法及び話し合いの結果

I 「まちづくりディスカッション」の話し合いの方法

話し合いの方法については、1テーブルにつき原則5人で、1時間の話し合いを4回行うこととした。話し合いの回数を4回としたのは、これまで開催した「まちづくりディスカッション」の検証の中で、高齢の参加者もいるため、全体で1日半とすることが参加者の負担感を考えると望ましいとの意見が多かったためである。(5回の話し合いを行うためには、全体で2日間の時間が必要となる。)

今回は、第4次基本計画の第2次改定に向け、実行委員会において、計画改定の担当部署である三鷹市企画経営課と話し合い、市民からの意見を取り入れるべきと思われる3つのテーマを決定したうえで、各テーマごとのプログラムを作成した。それぞれのテーマごとに参加者がおおむね5人ずつのグループに分かれて話し合い、第1回から第4回の話し合いのたびにメンバーの入れ替えを行った。投票シールの枚数は、一人6枚とした。

いずれのテーマにおいても、第1回目の話し合いは、参加者の緊張をほぐすためのイントロダクションと位置づけ、意見が出やすいような質問内容を設定した。また、第4回目の話し合いは、計画に盛り込む内容をまとめていただくための設問とし、第4回の設問に向けてアイデアが出るようテーマごとに第2回、第3回の話し合いの内容を実行委員会にて検討した。

II 分析の方法

分析の方法については、話し合いのシートの中のまとめの意見について、分類的に同じと思われるものをグループ分けして投票数が多い順に表にまとめた。

グループ分けを行うにあたっては、各グループ担当の実行委員の記録も参考にした。「残したい意見」については投票対象ではないので、意見をそのままの形で掲載した。

III 話し合いの結果

話し合いの結果については、各テーマの設問毎に次ページ以降にまとめた。見やすいように、設問毎に見開き1ページでまとめた。なお、以下2点の留意点がある。(1) 得票率の合計は、計算上100.0%にならない場合があること、(2) まとめ意見などに誤字脱字がある場合があるが、原文のまま記載していること。

テーマA あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり

【第1回話し合い】

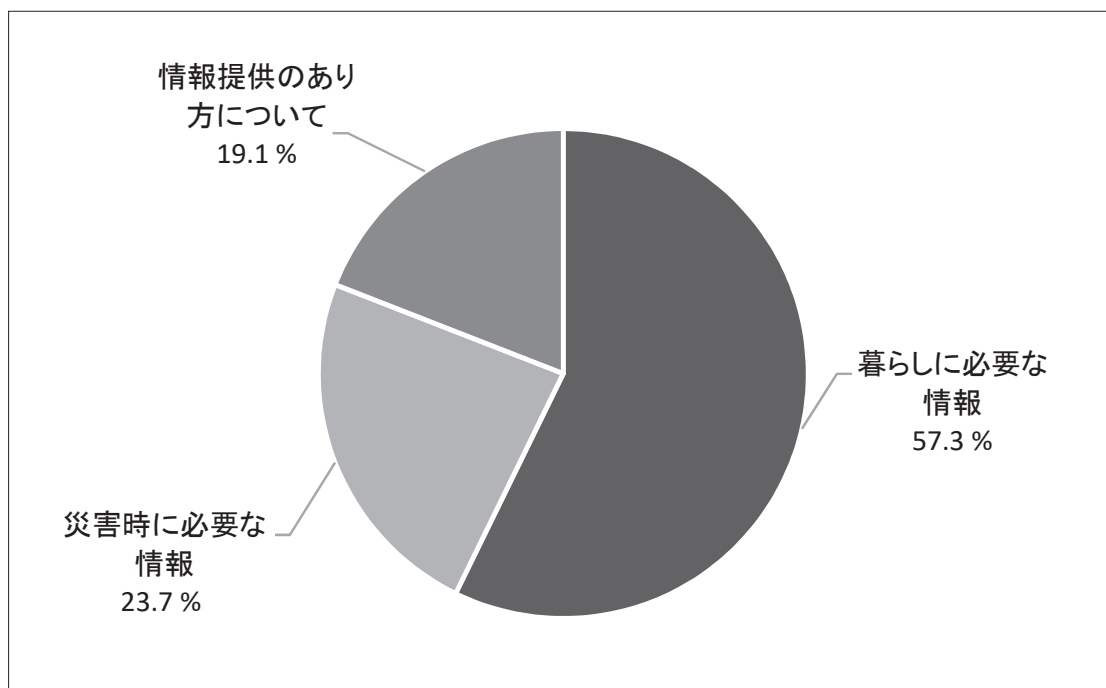
日常生活でほしい情報とは、どのようなものでしょうか？

地域密着 耳より情報！！

高齢者や弱者に必要な情報を分かりやすく提供して欲しい。

第1回のお話し合いの投票結果から、日常生活でほしい情報については、地元ならではの口コミ情報やバスの運行状況・ゴミの分別など生活に必要な情報を求める意見がもっとも多く、次に、災害時に必要な情報を求める意見が多かった。

●日常生活でほしい情報についての意見



●第1回の特に残したい意見

隣に住む人の名前も顔も分からない現状が悲しい／(例)避難所～ペット禁止～ペット共に過ごせる場所／情報伝達手段～ネット スマホ以外～／ゴミの分別を写真でとるだけでできるように／交通事故が多発している道路情報／町内単位(ご近所)の生活情報／IT(スマホ、PC、家電)何でも相談所

●第1回テーマの分析結果

まとめの意見	得票数	計	得票率
○暮らしに必要な情報			
地域密着 耳より情報！！	14	75	57.3%
住んでいるからこそわかる地元の口コミ情報(おいしいお店、獲れたての野菜、病院、習いごと)	12		
バスの運行状況 ～渋滞時(JR等はありませんが…)	11		
バスの到着時刻や今日の特売など毎日の生活の中でなくてはならないもの	9		
地域密着 医療情報！！	9		
地域密着 子育て情報！！	8		
ゴミ出し何でも相談所が欲しい。	6		
ゴミの分別や収集場所の情報。	6		
○災害時に必要な情報			
災害緊急ちょっと不安時の情報～心配時の情報	11	31	23.7%
交通機関の状況、天候異常による災害予報	7		
災害の情報がほしい。	7		
住んでいるエリアの最新災害情報(生命にかかわる)が欲しい。	6		
○情報提供のあり方について			
高齢者や弱者に必要な情報(サギ等)を分かりやすく(紙、掲示板)提供して欲しい。	14	25	19.1%
ICT情報を不得手な方へのPR、情報提供～なんでも相談室の設置	11		
合 計		131	100.1%

※得票率の合計は、計算上 100.0%にならない場合があります。

※まとめの意見などは、誤字・脱字がある場合がありますが、原文のまま記載しています。

テーマA あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり

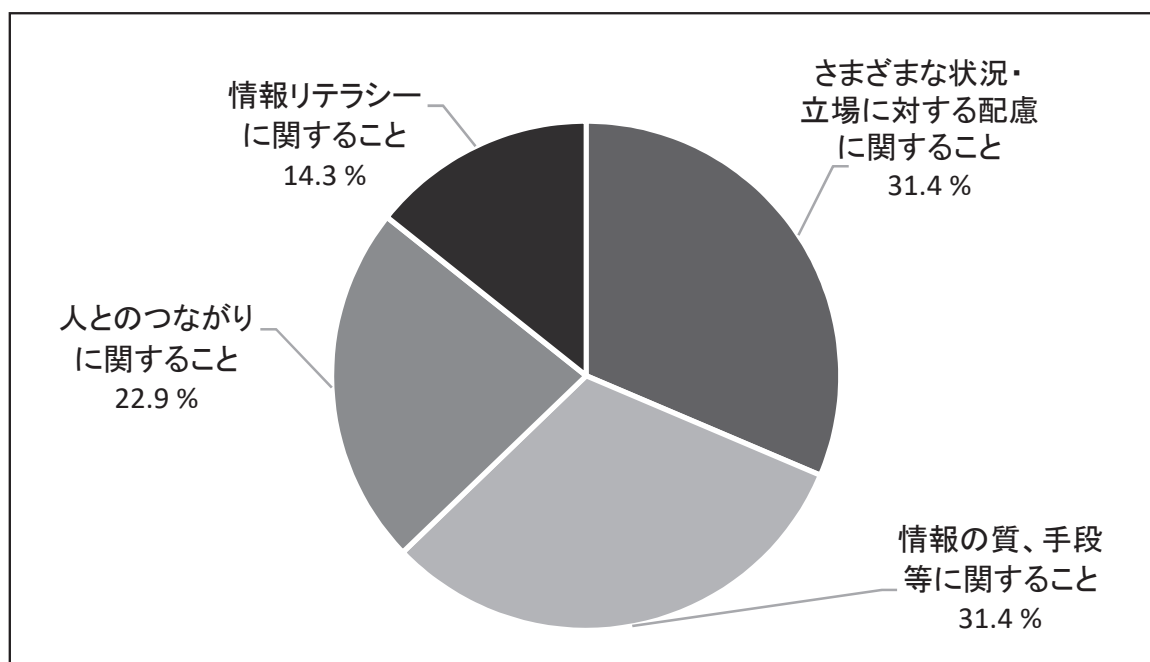
【第2回話し合い】

ほしい情報が手に入らないのは、どのような時で、なぜでしょうか？

身体的に不自由な時(メガネ、コンタクト、補聴器がない)
人とのつながりが希薄(掲示板、町会)

第2回話し合いの投票結果から、高齢者や外国籍の方たちを含むさまざまな立場・状況にある方たちに情報が届きにくいという意見、また情報の質や手段に関する意見が多かった。次に、人と人のつながりに関する意見が多かった。

●情報が手に入らない理由について



●第2回の残したい意見

弱者(一人住い)の伝達を必要とする(障害者、母子・父子家庭)／コミュニティ(町内会等)のつながりがない／周りが騒々しい時／情報伝達の方法が確立されていない時／情報が信用できない時／町内会ってあったんだ→殆ど付き合い無し。

●第2回テーマの分析結果

まとめの意見	得票数	計	得票率
○さまざまな状況・立場に対する配慮に関すること			
身体的に不自由な時(メガネ、コンタクト、補聴器がない)	18	44	31.4%
情報の意識(人間系) 立場によって情報が違う	14		
高齢者や外国籍の方の困った時、専門知識不足	12		
○情報の質、手段等に関すること			
企業(組織)が必要な情報を発信していない	10	44	31.4%
通信機器が使えない時で、電源がないため	9		
災害時の身のまわり(祭り、PCの使い方)の情報が手に入らない。	8		
情報の質、手段 防災無線が聞きとれない	7		
災害、人災時の発信者情報、伝達手段、ルート不足	5		
マイナー情報なので探しているものにたどりつけない	5		
○人とのつながりに関すること			
人とのつながりが希薄(掲示板、町会)	13	32	22.9%
集合住宅や近隣住民相互のコミュニケーション不足	10		
周りに頼れる人がいない時で、孤立しているため	9		
○情報リテラシーに関すること			
情報が多すぎて、処理しきれない。	11	20	14.3%
個人の情報リテラシー(判断力)が足りない	9		
合 計		140	100.0%

※得票率の合計は、計算上 100.0%にならない場合があります。

※まとめの意見などは、誤字・脱字がある場合がありますが、原文のまま記載しています。

テーマA あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり

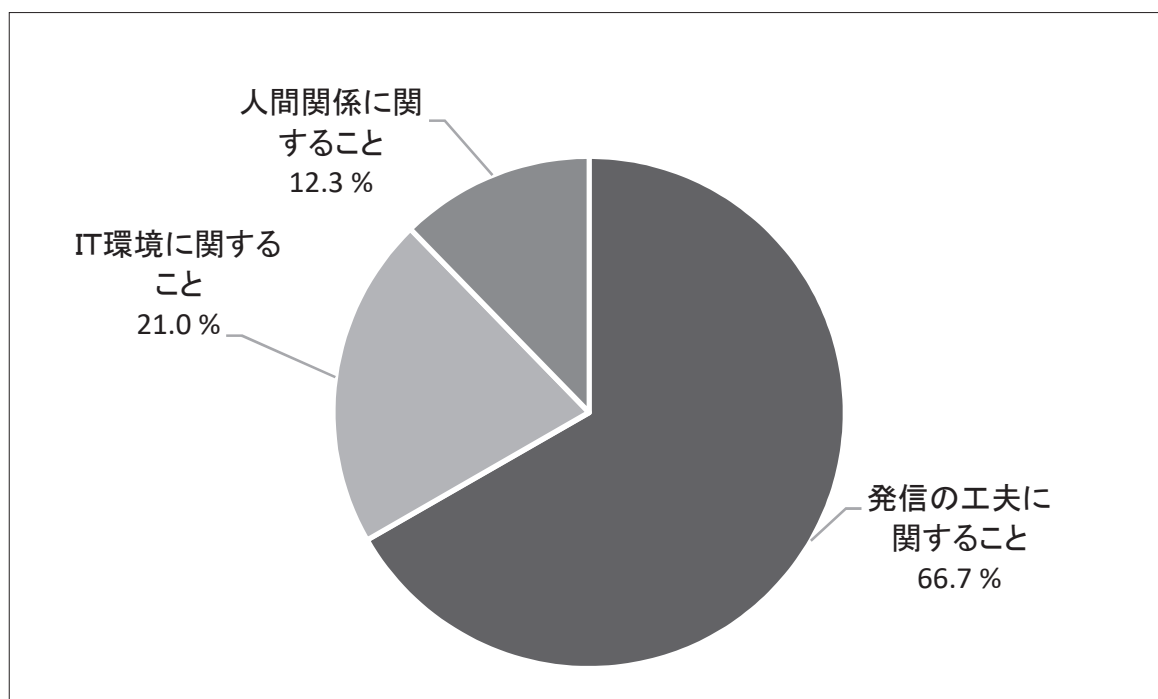
【第3回話し合い】

ほしい情報は、どのような工夫があるといつでも手に入りやすいと思いますか？

各地域にここに行けば必要な情報が分かるランドマークを設置
高齢者等に郵便配達ルートを活用して情報を届ける。

第3回話し合いの投票結果から、発信の仕方を分かりやすくするための意見が多く出された。またIT環境の整備に関する意見も出された。

●必要な情報が手に入るための工夫について



●第3回の残したい意見

掲示板の復活／コミュニティ 人とのつながりを大切にする／誰にでもわかる言葉で表示(お役所言葉は難解)／各バス停にテロップによるリアルタイム情報／支援を必要としている人のご近所への情報公開／[/www/:city.mitaka](http://www.city.mitaka)／表札を掲げる／聞きやすい防災無線

●第3回テーマの分析結果

まとめの意見	得票数	計	得票率
○発信の工夫に関すること			
各地域にここに行けば必要な情報が分かるランドマークを設置(ポキちゃんスタンド等)	18	92	66.7%
高齢者等に郵便配達ルートを活用して情報を届ける。	16		
可視化(案内図…トイレ)	12		
誰でも情報を見やすくする	11		
言葉ではなく、写真やイラスト等の誰でも見てわかる工夫	10		
発信しやすいよう工夫する	9		
情報媒体の活用！(三鷹新聞・優先放送・三鷹市の広報をもっとおもしろく)	9		
機械化(AIスピーカー 双方向テレビ)	7		
○IT環境に関すること			
市内情報のデータベースを作る(一次ソースで)	15	29	21.0%
ネット関係を充実させる！(無料 Wi-Fi・端末の貸し出し)	14		
○人間関係に関すること			
人間関係(コンシェルジュ 町内会・掲示板)	11	17	12.3%
人間関係を大切に作る工夫！(隣人を知る・サークルに入る・町内会・回覧板)	6		
合 計		138	100%

※得票率の合計は、計算上 100.0%にならない場合があります。

※まとめの意見などは、誤字・脱字がある場合がありますが、原文のまま記載しています。

テーマA あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり

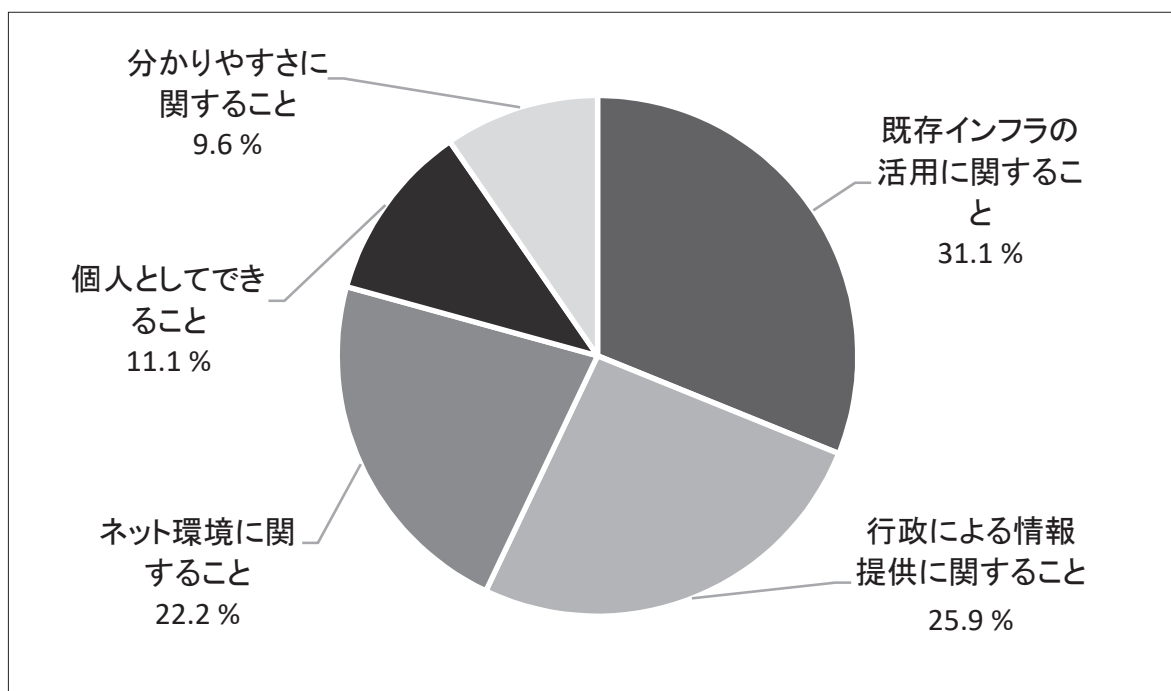
【第4回話し合い】

あらゆる人に情報が行き渡るために、基本計画に盛り込んだ方が良いアイデアをまとめてください。

全域に無料 Wi-Fi 無料充電スタンド ミラーサーバーの増設
なんでも相談コーナーを設置する。(市民目線で対応) とびこみ
相談、電話相談OK

基本計画に盛り込んだ方が良くと思うアイデアについては、既存インフラの活用に関するものが最も多かった。次に、行政による情報提供に関すること、ネット環境に関するアイデアが出た。

●基本計画に盛り込んだ方が良く思うアイデア



●第4回の残したい意見

情報発信に特化したコンシェルジュの養成、AI のコンシェルジュ／無料の WiFi の提供／三鷹市の公式アプリ／タブレット スマホの貸出し／「なんでも」相談窓口を作る／重要な情報は、公共交通で可視化／どこが指揮を取る？どこを頼れば良い？

●第4回テーマの分析結果

まとめの意見	得票数	計	得票率
○既存インフラの活用に関すること			
郵便配達ルートを活用した情報発信と見守り隊	12	42	31.1%
ポキちゃんスタンドを情報拠点にする。→交番、コンビニ、郵便局、コミセン、駅 365日24時間対応可能にする。	11		
オフライン 既存のインフラの利用 定時定点の情報交換 郵便局・宅配業者との連携	10		
既存の施設(コンビニ、病院、デイサービス)を利用した情報発信	9		
○行政による情報提供に関すること			
なんでも相談コーナーを設置する。(市民目線で対応) とび込み相談、電話相談もOK。	16	35	25.9%
公共的施設には、必ず情報の発信(場所)を義務付ける	10		
「みるみる三鷹」「ケーブルTV」を災害時に全家庭で見ることができるようにする。	9		
○ネット環境に関すること			
オンライン 全域に無料Wi-Fi 無料充電スタンド ミラーサーバーの増設	19	30	22.2%
ネット系をフル活用する。(ワイプで地域の情報発信、動画サイトで川や駅の定点カメラの様子を発信)	11		
○個人としてできること			
連絡手段は、複数の方法をもつ	15	15	11.1%
○分かりやすさに関すること			
情報の表現は、誰が読んでも分かるようにする	7	13	9.6%
デッドライン 掲示板 わかりやすい表示	6		
合 計		135	99.9%

※得票率の合計は、計算上 100.0%にならない場合があります。

※まとめの意見などは、誤字・脱字がある場合がありますが、原文のまま記載しています。

テーマB 互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり

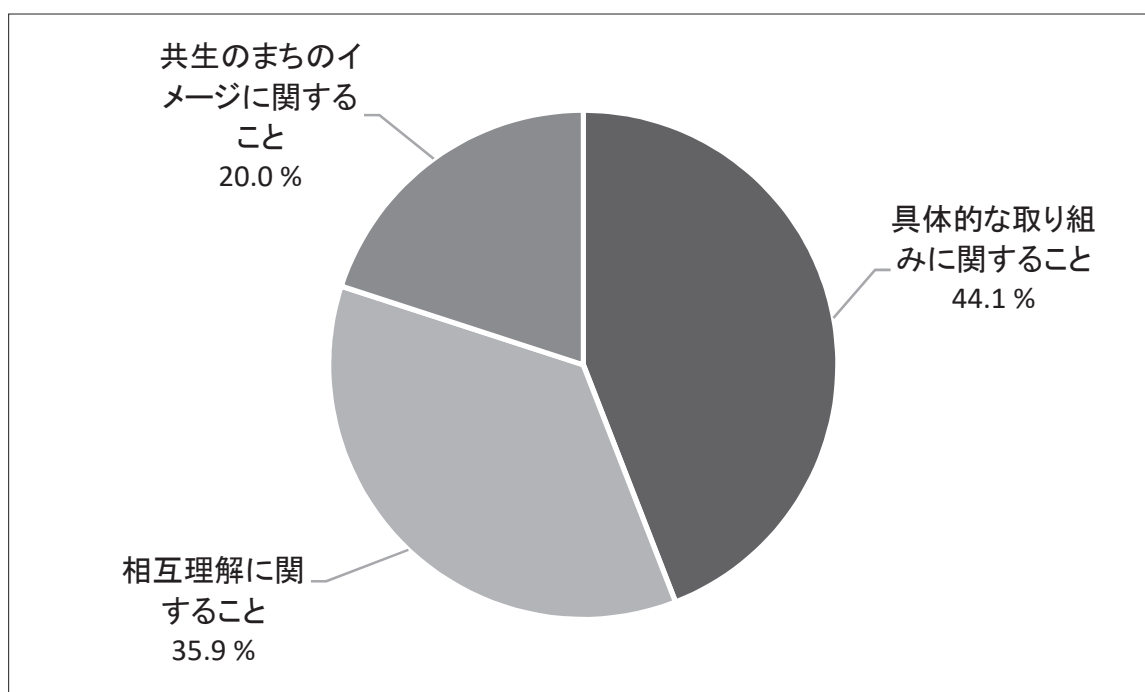
【第1回話し合い】

さまざまな人が共に生活する「共生のまち」とは、どのようなまちでしょうか？

共生するために、少数(弱者)がいるということを皆が認め、やさしさを持てるような教育をし、当事者も平等に教育を受けられるまち
誰もがマイノリティの要素を持っていることを認識して、マイノリティが全人格ではなく、人の一部分であるという価値観の共有できるまち

第1回話し合いの投票結果では、具体的な取り組みによって「共生のまち」をイメージする意見が多かった。また、「共生のまち」を実現するためには相互理解が大切という認識も多く出された。

●さまざまな人が共に生活する「共生のまち」とは



●第1回の残したい意見

同じスタート地点に立てるまち／外国籍の市民への日本語教室／人車分離が必要 歩き易い道路少ない
スマホ運転は危険／高いネットがあるにも関わらず、ボール遊びを禁止するのは何故でしょうか？／自由に選べる街。／強制的に共生／車と自転車の共生／常識と良識の教育ができる町

●第1回テーマの分析結果

まとめの意見	得票数	計	得票率
○具体的な取り組みに関すること			
障がい、遠距離などのマイノリティの方の意見がきちんと届くようなシステムのあるまち そもそもこの話し合いに来られる人が限られるのが「？」	14	75	44.1%
共生できる街を目指して、ハード面での充実をはかる。 例) ・障がい者の人が使える場を身近に。 ・道路拡幅 ・誰でも〇〇(トイレ、授乳室、更衣室など) ・子供が自由に遊べる公園	13		
移動手段の充実した町	13		
具体的かつ何でも相談できる窓口を市民が作る	10		
行政に気軽に相談出来て様々な生活面を理解出来る町	10		
災害時の避難所での共生がキチンと出来る町 避難所はさまざまな共生を考える上で、究極的な姿となるもの。避難所で起こり生る問題から共生を考えるチャンスとしたい。	7		
「誰もがマイノリティの要素を持っていることを認識して、マイノリティが全人格ではなく、人の一部分であるという価値観の共有できるまち」を実現できる場(コミュニティ)を市が作る	5		
集会所でのイベント活用/既存施設の見直しと充実化/日中集まれる場所(子供が)を作る	3		
○相互理解に関すること			
共生するために、少数(弱者)がいるということを皆が認め、やさしさを持てるような教育をし、当事者も平等に教育を受けられるまち	19	61	35.9%
誰もがマイノリティの要素を持っていることを認識して、マイノリティが全人格ではなく、人の一部分であるという価値観の共有できるまち	19		
それぞれの違いを理解して、思いやりを必要とする。小さなコミュニティを大切に、無関心すぎない町	12		
現実を把握する機会をつくり、理解する。(人はそれぞれであり、みな違う。見えていることだけがすべてではない。)	11		
○共生のまちのイメージに関すること			
気軽にあいさつできる町	18	34	20.0%
自然体で共生できるのが真の「共生のまち」である。肩のこらない街	11		
地域とつながり、安心と安全が得られるために共生するまち	5		
合 計		170	100.0%

※得票率の合計は、計算上 100.0%にならない場合があります。

※まとめの意見などは、誤字・脱字がある場合がありますが、原文のまま記載しています。

テーマB 互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり

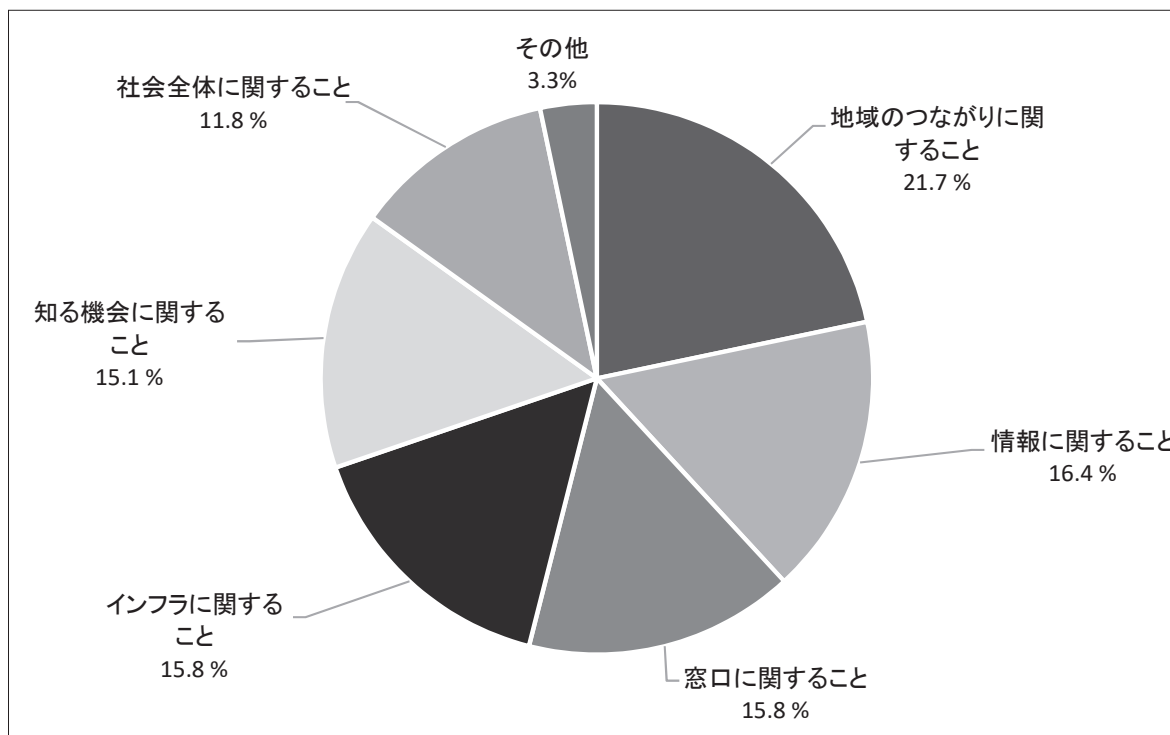
【第2回話し合い】

「共生のまち」を実現するために、足りないものや、課題はどのようなものがあると思いますか？

バリアフリーは皆のため。道路が狭く、自転車が不便で危険。道路に休むベンチや日影が欲しい。
共生に対する不安を相談できる機会が足りない。

第2回話し合いの投票結果では、「共生のまち」の実現に際しては、地域のつながりが少ないことや情報が足りないことなどが課題として挙げられた。

●「共生のまち」を実現するための課題は



●第2回の残したい意見

自転車のマナー／バス停が狭い。／MISHOP の運営(ボランティアが出費多額)などに問題があり、外国人との交流が小さい規模／「あたりまえ」という言葉を無意識につかうと、おしつけ、暴力になる／家族、近所が介ゴできる社会／三鷹市にはボール遊びが出来る公園は2ヶ所のみ。ネットがあっても遊べない。
→元気に子供達が遊んでいる公園ほしい。／学校だけでなく家庭での教育

●第2回テーマの分析結果

まとめの意見	得票数	計	得票率
○地域のつながりに関すること			
コミュニティ 子育て世代や高齢者などを横断したコミュニティがない	12	33	21.7%
近隣でのコミュニケーション不足解消(あいさつ、声掛け、民生委員)	11		
共生のための地域のつながりが足りない	10		
○情報に関すること			
本当に必要としている人に必要な情報が届いていない。どんなことでも(管轄外のものでも)まずは相談できる窓口やホットラインが行政にない。AI化が進んでいる割には、余裕ができた分の人手で、情報弱者や支援からもれている人へのサポートができていないのでは。	14	25	16.4%
情報格差 情報に格差があり、得られる人と得られない人がいる	11		
○窓口に関すること			
共生に対する不安を相談できる機会が足りない	15	24	15.8%
折角の福祉サービスが、必要な人に届いていない。広報により利用者が増えれば施策がさらに拡大する。誰もが電話メールできる「共生のまち」窓口。窓口の担当者は優しく。	9		
○インフラに関すること			
バリアフリーは皆のため。道路が狭く、自転車が不便で危険。道路に休むベンチや日影が欲しい。	16	24	15.8%
共生、思いやりが実現できるようなインフラや条例が足りていない。例)道路がせまい…自転車・歩行者・自転車の安全、路上喫煙禁止など	5		
インフラ 道路が狭い・多目的トイレが少ない・広めの公園が少ない	3		
○知る機会に関すること			
知る機会が足りない(自分自身のこと相手のこと)	15	23	15.1%
自分の身近なことしか普段関心がなく、人との違いに気づかない。各自の「あたりまえ」があたかも同じであるかと勘違いしている。ダイバーシティについて三鷹市も統計資料が足りていない。	8		
○社会全体に関すること			
下地として安心感を持って暮らせる社会の構築	15	18	11.8%
弱者をフォローできる社会の実現	3		
○その他			
三鷹市は意外と住みやすい。だから三鷹に住んでいます。坂が少ない、災害が少ない、緑も多い、バスが多い、物価も近隣に比べて安い	5	5	3.3%
合 計		152	99.9%

※得票率の合計は、計算上 100.0%にならない場合があります。

※まとめの意見などは、誤字・脱字がある場合がありますが、原文のまま記載しています。

テーマB 互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり

【第3回話し合い】

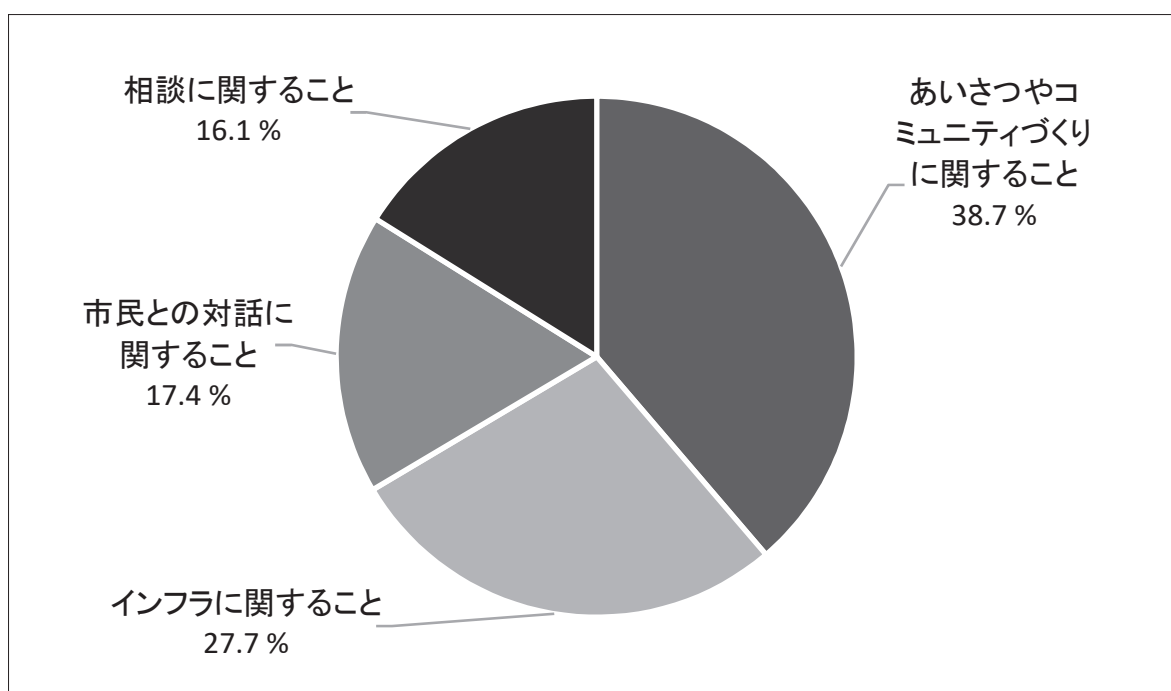
「共生のまち」を実現するために、どのようなことができるでしょうか？

「挨拶の町・三鷹」運動

誰もが共生できるためのインフラ・だれでもトイレ、親子休憩室
(学童保育以降の)子供の居場所 子供が自由に遊べる公園
(見守り要員も)→公園に規制が多いため

第3回話し合いの投票結果では、あいさつやコミュニティづくりに関する意見がもっとも多く、次に、インフラに関する意見が多かった。

●「共生のまち」を実現するためにできることは



●第3回の残したい意見

道を広くしてほしい／家庭教育(ディスカッションの事前準備)Oスタートでなく情報を入れてほしい(事前準備)／行政が市民講座で社会問題について教育する。／情報発信／個人情報を全員が開示して、開かれた街にする

●第3回テーマの分析結果

まとめの意見	得票数	計	得票率
○あいさつやコミュニティづくりに関すること			
「挨拶の町・三鷹」運動	22	60	38.7%
みんなが優しい心を持つ。人に対するすべての人への教育	15		
あいさつ あいさつを市のスローガンに、ポスターを貼る、学校での教育	10		
情報 情報共有できるよう、核になる人材を各地に配置、町内会の情報提供	6		
地域での新しいコミュニティ作り(新しい町内会、自治会等の検討)	4		
転入者向けの三鷹同期会	3		
○インフラに関すること			
誰もが共生できるためのインフラ・だれでもトイレ、親子休けい室(学童保育以降の) 子供の居場所 子どもが自由に遊べる公園(見守り用員も) →公園に規制が多いため	20	43	27.7%
インフラ 道路の拡張、自転車のマナー向上のため、大人自転車教室を開く	12		
安全に住めるまちの実現(道路の拡張、災害対策、助けられる人、助けてほしい人が気楽に発信などができる)	11		
○市民との対話に関すること			
市民のディスカッションの場を増やす	13	27	17.4%
読もうと思ってもらえるような具体的な議論の中身まで伝える。(市報)→ディスカッションの可視化	8		
議論をつみあげて、成果につなげていくこと。→フィードバックやしくみを作る。	6		
○相談に関すること			
何でも相談できる窓口のPR(総務部相談情報課)	18	25	16.1%
共生のための窓口 人に優しい窓口と担当者の研修の必要性 窓口(出張所ごとに)、電話、メール(夜間など)	4		
誰もが気楽・気軽に相談できる場をつくる	3		
合 計		155	99.9%

※得票率の合計は、計算上 100.0%にならない場合があります。

※まとめの意見などは、誤字・脱字がある場合がありますが、原文のまま記載しています。

テーマB 互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり

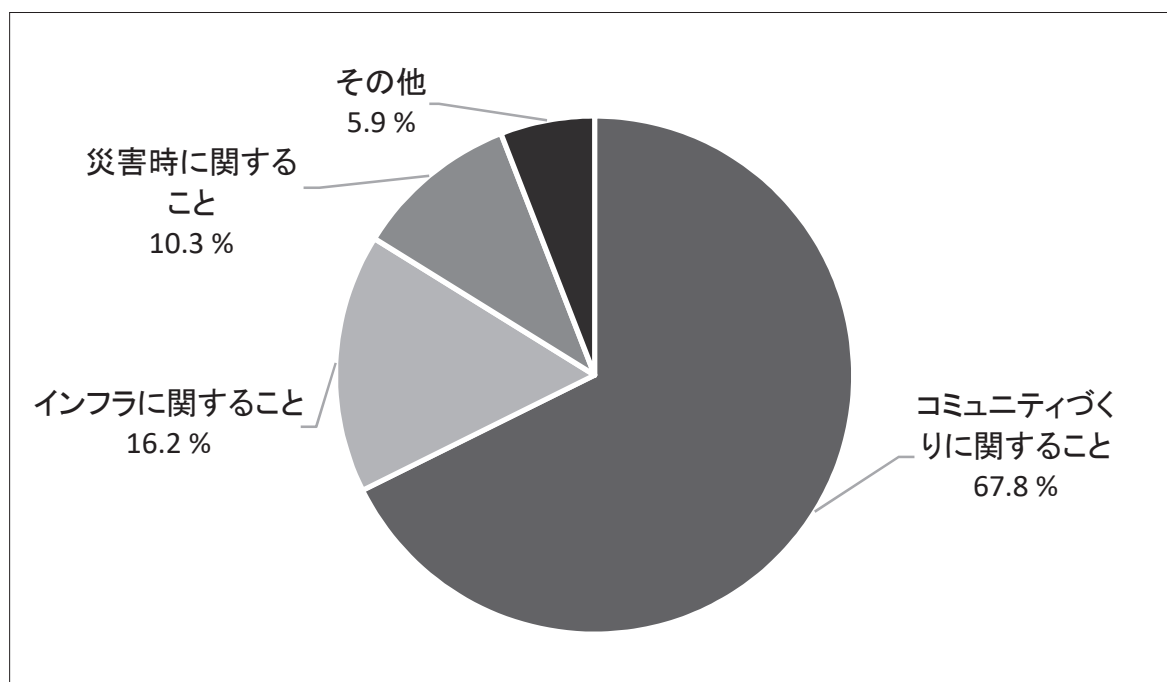
【第4回話し合い】

互いに助け合えるまちづくりを進めるために、基本計画に盛りこんだ方がよいアイデアをまとめてください。

新たな地域ネットワーク 新しい町内会、自治会を発足、助ける人と
助けてほしい人を結ぶネットワーク 得意なことをマッチング
デジタル回覧板 多様な情報、手段 外国語

基本計画に盛り込んだ方がよいと思うアイデアについては、コミュニティづくりに関する具体的な意見が多く、次に、インフラ整備に関する意見が多く出された。

●基本計画に盛りこんだ方がよいアイデア



●第4回の残したい意見

地域のイベントや集まりに行政も参加してもらう(地域と行政のつながりを強めるため)／今のコミュニティセンターは単に「ハコ」になっていて職員さんはその管理をしているだけなのもったいない。災害の時など、できるだけ地元のしせつが中心となれる方がよい。コミセンのしせつとスタッフの役割を、もう少し人的ネットワークの中心に据えても良いのでは。／みたか特有のまつり・イベントでみたかを盛り上げる／駅前再開発でも、子どもの居場所(児童館・学童で入れない子どもがいかれるような)や、お年寄りがひきこもらず人と交流できたり、人と交流に難をかかえる人が集まれるコミュニティセンターを中心にした開発をしては。／財源の確保も必要／本日お逢いした皆さんとは町で会ったら必ずあいさつしましょう

●第4回テーマの分析結果

まとめの意見	得票数	計	得票率
○コミュニティづくりに関すること			
新たな地域ネットワーク 新しい町内会、自治会を発足、助ける人と助けてほしい人を結ぶネットワーク 得意なことをマッチング	18	92	67.6%
マッチングシステム 自分のできることを発信し気軽に利用できるシステム(提供できるマーク、お手伝いチケット ヘルプカード ちょこつとサポーターなど)	15		
デジタル回覧板 多様な情報(生活情報、災害、防犯イベントなど)、手段(スマホ通知、J-com 専用スピーカー配布) 外国語	15		
コミュニティセンター機能の見直し(まちづくりの中心を担う)	13		
大人も子どもも共助について学ぶ機会を積極的に増やす	12		
<あいさつ> 「あいさつの出来る街・三鷹」運藤の普及 例:スローガン/ポスター、LINE 用スタンプ、あいさつマイスター制	12		
世代を超えて共助のできるコミュニティづくり(防災も含め、あいさつ等)	7		
○インフラに関すること			
<インフラ> 道路の拡幅と人・自転車の分離・シティバスの拡充と周辺自治体との連携	14	22	16.2%
安心・安全なインフラづくり	5		
駅前再開発 駅前再開発の情報開示(初めて知った) 駐輪場整備、道路拡張、歩道のレンガを平らにする	3		
○災害時に関すること			
災害時のインフラのフェイルセーフ・バックアップ(防災無線・停電時断水時どうするか、安全な道はどこ?)	7	14	10.3%
災害時の情報の共有化と伝達方法の見直し 地域での普段からの申し合わせ 細かい避難情報の周知	6		
とりこぼされる人がいないような防災・減災対策(火災・水害地震対応)	1		
○その他			
三鷹のブランド力を高めるために市民による魅力発掘や市民がまちづくりに参加できる仕組み	6	8	5.9%
<つながる情報> ・日常、気軽に相談できる窓口の増設と周知 ・緊急時、三鷹ケーブルテレビやコンビニを活用した伝達	2		
合 計		136	100.0%

※得票率の合計は、計算上 100.0%にならない場合があります。

※まとめの意見などは、誤字・脱字がある場合がありますが、原文のまま記載しています。

テーマC 周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり

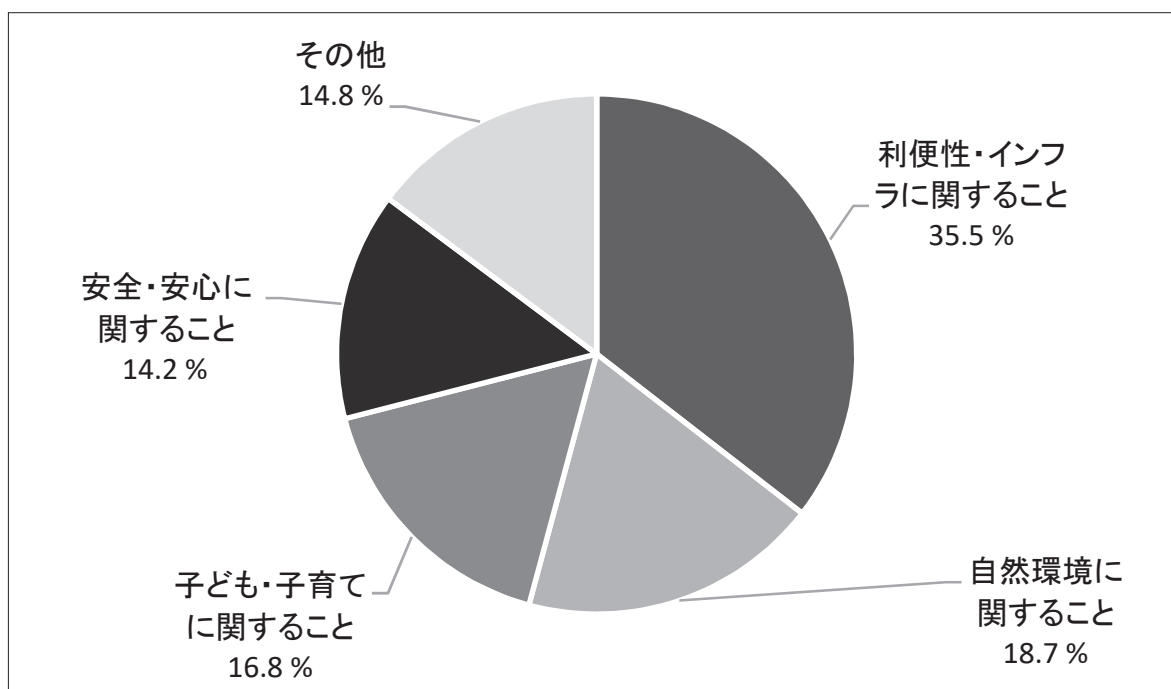
【第1回話し合い】

「高環境」と聞くと、どのような環境が良い（高い）と考えますか？

子育て世代に大きな金銭負担をかけない。
都市施設の整備・充実（子育て支援、教育施設、防災）
住環境と調和した道路等の整備（バリア・フリー、道路巾員、ジャンクション、駐輪場）

第1回のお話し合いの投票結果によれば、利便性やインフラに関する意見が多かった。その他に自然環境、子ども・子育て、安全安心などに関する意見が出された。

●「高環境」とは？



●第1回の特に残したい意見

電線の地中化で空間確保、防災力UP↑／行政のデジタル化／医療施設の連携／星が見える街、三鷹／生産緑地の使い道

●第1回テーマの分析結果

まとめの意見	得票数	計	得票率
○利便性・インフラに関すること			
都市施設の整備・充実(子育て支援、教育施設、医療施設、防災)	14	55	35.5%
住環境と調和した道路等の整備(バリア・フリー、道路巾員、ジャンクション、駐輪場)	14		
利便性が良く、教育と医療が充実した街	12		
市内のエリアが分断されていない利便性の高いまち 例)東西を縦断するバス、情報がシェアされている	10		
交通弱者が困らない 老人車イス→気軽に出かけられる・ミニバスのルート本数	5		
○自然環境に関すること			
生態系の保全も担う公園がある。	11	29	18.7%
公園が多く、水・空気がきれいな街	9		
駅におりると、緑と水の香りがする。	9		
○子ども・子育てに関すること			
子育て世代に大きな金銭負担をかけない。	18	26	16.8%
地域で子どもを見守る。	8		
○安全・安心に関すること			
有事も平時も安心・安全なまち 例)ペット、赤ちゃん連れでも行ける広い避難所 辺境にも避難所	12	22	14.2%
安全、安心で、環境と景観の良い街	10		
○その他			
地域、世代、人種を越えた交流ができる街	10	23	14.8%
情報が得やすい 災害時	7		
周辺との連携が強いまち	6		
合 計		155	100.0%

※得票率の合計は、計算上 100.0%にならない場合があります。

※まとめの意見などは、誤字・脱字がある場合がありますが、原文のまま記載しています。

テーマC 周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり

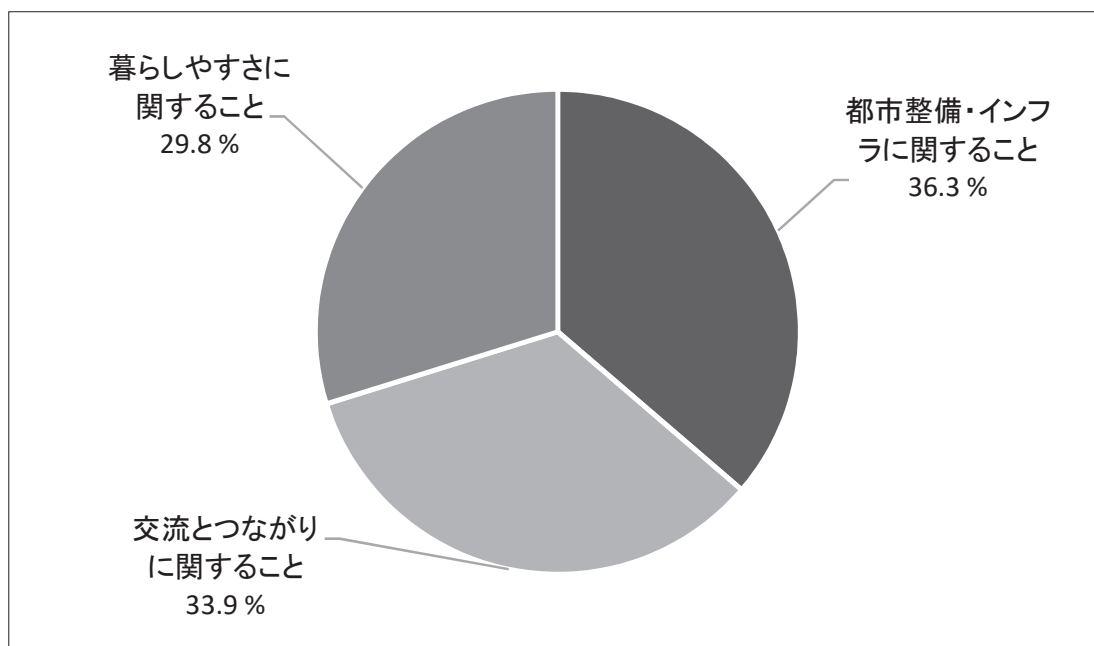
【第2回話し合い】

「暮らしやすいまち」、「居心地がよいまち」とは、どのようなまちをイメージしますか？

多様な世代の人と交流、情報交換出来る街
空き家の有効活用、屋外での禁煙、電線等、景観を重視(ジブリ・天文台をさらに充実させる)

第2回のお話し合いの投票結果によれば、都市整備・インフラに関する意見がもっとも多く、次に交流とつながりに関する事、暮らしやすさに関する意見がつついた。

●暮らしやすい、居心地がよいまちのイメージとは



●第2回の残したい意見

高環境が大大前提！！／現況施設をもっと使いやすく、明るく、清潔に／三鷹駅周辺に憩いの空間を整備する／学生や子育て世代、壮年世代まで、幅広く使える公共スペースがある。／街全体、エリア毎に特徴やコンセプト(街づくり)が明確になっている。／職住接近が実現できる。／世代間のバランス。／安全に暮せるまち

●第2回テーマの分析結果

まとめの意見		得票数	計	得票率
○都市整備・インフラに関すること				
空き家の有効活用、屋外での禁煙、電線等、景観を重視(ジブリ・天文台をさらに充実させる)	17	62	36.3%	
子供の通学等、ベビーカー、車いす、視覚弱者、自転車運転等々やさしい道づくり	13			
都市開発のバランスがよい。(農地利用、マンション、駐輪場等の設備、JC、中心部と周辺地域が分断されない)	13			
常に手入れされている設備、施設(みんなが使える)	11			
充実したパブリックスペースの整備(自転車用道路、歩道、緑化、景観、とくに駅前)	8			
○交流とつながりに関すること				
多様な世代の人と交流、情報交換出来る街	20	58	33.9%	
隣近所との交流、地域のつながりがある町	16			
助け合いの住民意識が高い街	13			
世代・地域間の交流があり、それができるスペースがある。(近所にたまり場、空家文化施設の活用、地域の一体感)	9			
○暮らしやすさに関すること				
公共施設(図書館等)の市内(世代)格差がすくない街	16	51	29.8%	
楽しくておいしい!! (ほっとできる場所、おいしい店、イベント)	12			
みんなが便利に買物できる(高齢者、赤ちゃん連れ等、弱者)	10			
地域(町単位)での小規模でもいいので、商店街(マルシェ風)が整備する。	7			
緑が多く安心・安全でほっとできる。(静けさ、清潔、安全、休憩場所もある、木陰)	6			
合 計		171	100.0%	

※得票率の合計は、計算上 100.0%にならない場合があります。

※まとめの意見などは、誤字・脱字がある場合がありますが、原文のまま記載しています。

テーマC 周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり

【第3回話し合い】

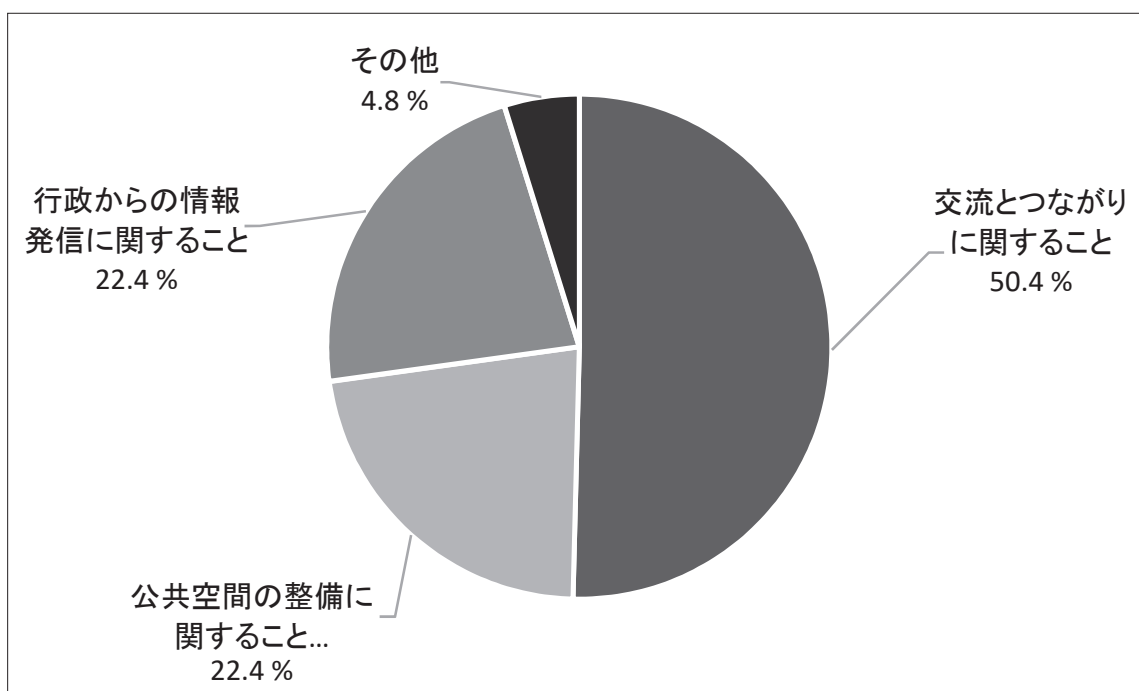
「暮らしやすいまち」、「居心地がよいまち」を実現するため、どのようなことをしていくと良いと思いますか？

市民と市政のバリアフリー化（市の情報発信、住民の不満を受け入れる窓口。広聴課の設置）

“交流の場”づくりを実現するために、『共同体意識』と『三鷹ブランド』が必要

第3回の話し合いの投票結果によれば、交流とつながりに関する意見がもっとも多く、次に、公共空間の整備に関する意見と情報発信に関する意見が並んだ。

●実現するためにしていくと良いと思うこと



●第3回の残したい意見

商店街の活性化／災害時にハザードマップにつながりにくいので対策が必要／みたか広報の活用 LINEで広報(SNS)／三鷹オリジナルのあいさつ／シニア先生(子どもを教える)

●第3回テーマの分析結果

まとめの意見	得票数	計	得票率
○交流とつながりに関すること			
“交流の場”づくりを実現するために、『共同体意識』と『三鷹ブランド』が必要	19	83	50.3%
(地域のつながり 交流の場づくり) イベント(多くする、地区持回り BBQ 歩行者天国でマルシェ etc)	15		
(交流のためのイベント)を実現するために、世代間・地域の横のつながりをつくる(ex. 町内会、子ども会、サークル、団体、日常の挨拶 etc.)	14		
世話役をつくる(自治会幹事あいうえお順)(商店街主体)祭りなど	11		
多様な世代と交流するためには… あいさつ運動、交流会を持つ	9		
世代をこえたコミュニケーション、情報交換の場所、手段(掲示板、インターネット)	9		
コミュニティーセンターの活用活性化(その広報も)	6		
○公共空間の整備に関すること			
個人でもグループでもみんなが居心地の良い場の実現→無料のパブリックスペース	17	37	22.4%
子育て、高齢者にも配慮した町づくり(長期的な視野での公共施設づくり)	13		
公園、道路の清掃、整備 住民と行政の役割分担の明確化	7		
○行政からの情報発信に関すること			
市民と市政のバリアフリー化(市の情報発信、住民の不満を受け入れる窓口。広聴課の設置)	21	37	22.4%
市から情報の発信(見まもり制度、三鷹市のキャッチフレーズ、イベント)	16		
○その他			
安心、安全な街の実現のためには… ルールを周知し、住民それぞれがマナーを守る。(タバコ・自転車・ゴミ・歩きスマホ・イヤホン使用)	8	8	4.8%
積極的に情報発信し、できることから着手し、広めていく(まきこむ!!)	0		
合 計		165	99.9%

※得票率の合計は、計算上 100.0%にならない場合があります。

※まとめの意見などは、誤字・脱字がある場合がありますが、原文のまま記載しています。

テーマC 周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり

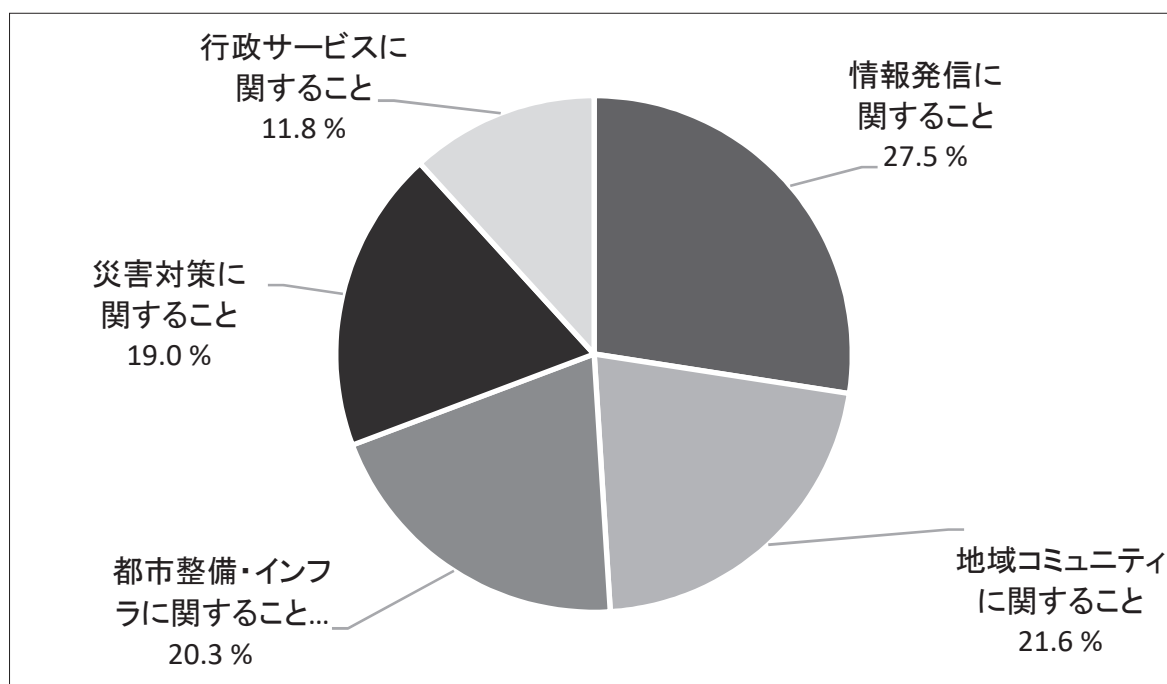
【第4回話し合い】

周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくりに向けて、基本計画に盛り込んだ方が良いアイデアをまとめてください。

情報の双方向(行政&住民)のやりとり ex.モニター制度 ex.受手の多様性に配慮する ex.防災無線を各戸に用意する
ターゲット(子育て世代、高齢世代、子供達を明確にした防災訓練)を
市民共同協働で実施する。

基本計画に盛り込んだ方がよいアイデアとしては、情報発信に関することがもっとも多く、次に、地域コミュニティに関すること、都市整備・インフラに関すること、災害対策に関することとつづいた。

●基本計画に盛り込んだ方がよいアイデア



●第4回の残したい意見

三鷹のイベント時にイベント会場へのコミュニティバス配車／駅前をコミュニティスペースに／生産緑地をコミュニティスペースに／子育て支援の充実 ex.手当、保育園数等 周辺との格差大きすぎる！／商店街の活性化／三鷹のシンボルマーク／弱者を守る“助けてボタン”の設置／拡声器(サイレン)の充実

●第4回テーマの分析結果

まとめの意見		得票数	計	得票率
○情報発信に関すること				
情報の双方向(行政&住民)のやりとり ex.モニター制度 ex.受手の多様性に配慮する ex.防災無線を各戸に用意する	18	42	27.5%	
全住民に情報がタイムリーに行き渡るように！！ ex.防災無線の放送内容の聞きなおしができることを徹底周知をする etc.	10			
広報でコミュニティ間の橋渡し、地区とイベントの特集	9			
情報の相互発信(市民参加、市民に届く情報)	5			
○地域コミュニティに関すること				
三鷹のあいさつを公募で決める(あいさつは人間関係づくりから)	14	33	21.6%	
多様な世代が気軽につどえる場所作り 例えば 元気創造プラザにカフェを併設する 例えば 駅前再開発に「武蔵野プレイス」もどきを	11			
世代と地域を越えたコミュニティ(高齢者と保育園、地域祭り、学校同士のつながり)	8			
○都市整備・インフラに関すること				
安全な歩道の整備、電柱地中化 ex.ベビーカー、自転車、歩行者、車イスの人も安心して往来できる。	11	31	20.3%	
インフラの充実(電柱の地中化、水遊びのできる公園の増加、街路樹・電灯の整備、シティバスの充実)	10			
良い住環境に配慮した街作り(農地の宅地化のバランス、外環JCへの配慮、バリアフリー)	10			
○災害対策に関すること				
ターゲット(子育て世代、高齢世代、子供達を明確にした防災訓練)を市民共同協働で実施する。	18	29	19.0%	
有事に強い、情報提供体制の構築、地域リーダーの育成	8			
安心・安全に配慮した街作り(安定したインフラ、食料備蓄、備品、情報提供、医療施設、テロ)	3			
○行政サービスに関すること				
行政と市民のバリアフリー化。 ex.市民の不満・不安・疑問を受付ける窓口設置	11	18	11.8%	
高令者が社会参加できる場の提供・支援 ex.学校教育	7			
合 計		153	100.2%	

※得票率の合計は、計算上 100.0%にならない場合があります。

※まとめの意見などは、誤字・脱字がある場合がありますが、原文のまま記載しています。

第3章 「まちづくりディスカッション」の評価と検証

第4次基本計画第2次改定に向けたまちづくりディスカッションは、三鷹市とNPO法人みたか市民協働ネットワークがパートナーシップ協定を締結し、協働で推進した取り組みである。三鷹市で10回目の開催となる今回のまちづくりディスカッションの主な特徴は、以下のとおりである。

- (1) NPO法人みたか市民協働ネットワークが、2010年度に実施した「コーディネーター養成講座」の受講者に加え、さらに幅広い個人・団体及び学生に呼びかけて実行委員会を設置し企画・運営を行った点
- (2) 3つのテーマについて、同時進行で運営を行った点
- (3) 全体スケジュールを1.5日とした点

以上の3点をふまえ、実行委員会で評価と検証を行った。

下記に実行委員のおもな意見を掲載する。

I 評価と検証（プログラム編）

1 プログラム設計

- ・良く組まれたテーマ配分で、皆さん話しやすかったのではないかな。
- ・明確なゴールが無い中でのプログラム設計だったが、議論内容を拝見し、良い内容が構築出来た。
- ・難しいテーマだったが、段階的に小テーマが進み、最終的な防災減災の話し合いに進みやすかった。
- ・Bは「共生」という抽象的なテーマだったが、改めて「共生とは何か」「今考えなければいけない状況なのか」等考える機会が持てたのは良かった。
- ・Cは高環境というよりは、暮らしやすさを中心に話し合いがされており、ハード面ではなくソフト面が市民には重要と感じた。

2 情報提供

- ・適材適所に依頼が出来、有効な情報提供だった。
- ・事前にある程度の情報提供があった方が市民もわかりやすいのではないかな。
- ・具体的な事例を幅広く紹介され、参加者自身の気付きにつながった。
- ・共生を強制せず、独りでいることも尊重すべきとの意見があった。
- ・時間を決めた「質疑応答」があっても良かった。
- ・話し合いの際にも参考になった。
- ・情報提供に影響されすぎていると感じることも多かった。

3 時間配分

- ・大体時間内に話し合えたので良かった。
- ・1回ごとの話し合いの時間はちょうどよかったが、発表の時間をもう少し取り質疑応答等の双方向でやり取りがあると、意見の熟成につながるのではないかな。
- ・投票前に他の班の発表の良かった点を述べ交流を深めてはどうか。

4 話し合いの方法

- ・どの班も活発に行われていた。

- ・少数意見の吸い上げが不十分かもしれない。
- ・自己紹介の時間がもう少しあれば、より話しやすさにつながる。
- ・意見交換、付箋出し、まとめ、と各項目に時間が決められていたことが良かった。
- ・口頭の説明だけでは理解が難しい。動画や写真、イラストなど見てわかる資料やスライドがあればより良かった。
- ・小テーマの話し合いでは、三鷹の話と抽象的なテーマの混在が気になった。各グループリーダーから補足説明があれば良かった。
- ・回数を重ねることで、参加者の理解と協力が得られたことがとても大きい。
- ・市民力の高さを感じた。

5 話し合いの内容と投票

- ・投票も意見が多岐にわたったため、大きな偏りもなく、多くの意見を吸い上げるのに役立った。
- ・自グループに投票する傾向が強かったので、自グループの意見には投票できない等制限がある方がいいかもしれない。
- ・他の発表を受け止めやすくするため、交流があつてからの投票が良い。
- ・投票は、発表者の発表の仕方により左右されるため、書かれた意見を見る時間が欲しかった。
- ・発表者はグループの代表であり、個人の意見だけではないことを意識する必要がある。
- ・自分がどこに貼っているか見られたくないとの意見があった。混雑するが一斉投票の形が良いのかもしれない。
- ・投票のルールがわかりにくいとの意見があった。ハンドブックに載せても良いのではないか。

II 評価と検証（運営編）

1 実行委員会

- ・ゼロベースからよくここまで作り上げられたと思う。
- ・模擬ディスカッション等実際に体験し勉強になった。
- ・資料が細かく準備されており、大変良かった。
- ・全体会は参加者も多く、良くも悪くも報告の場として捉えていた。個別の意見を取り上げるのであれば、少数グループ制にする等の対策が必要。
- ・事務局に依存していた面もあるが、資料が整っており良好だった。
- ・もう少し時間を短縮できたのではないか。
- ・初めてでも参加しやすい雰囲気良かった。
- ・若い人が積極的に意見を出せる雰囲気づくりが良かった。

2 全体スケジュール

- ・ほぼスケジュール通りで良かったと思う。
- ・ディスカッションを成功するためには必要なスケジュールであった。
- ・終了時間が学生にとっては遅いと感じたかもしれない。
- ・テーマ設定について見直しにもう少し時間が取ればよかった。

3 人員配置・役割分担

- ・人数も多く、混乱なく受付が出来た。
- ・進行中に帰られた参加者がおり、急きよ班を一つ減らして対応した。ただ、余るコーディネーター

の役割を想定しておくべきかもしれない。

- ・初めてコーディネーターをする人へもう少し事前のレクチャーがあれば良かった。

4 会場設営

- ・大研修室の複数回の設営が心配だったが、うまくいったと思う。
- ・次回は元気創造プラザ等の大きい会場でできればよい。
- ・可能であればワンフロアが望ましい。
- ・全体会と各グループの部屋は別に確保した方がよい。
- ・実行委員も全体会は聞きたいので、後ろに席を確保してほしい。

5 参加人数・グループ人数

- ・適正な人数だった。
- ・途中での人数変更もあり得ることを想定しておきたい。

6 その他

- ・Aグループは想定しており、待ち時間や混乱がなかったものの移動が多く忙しかった。
- ・同じ提案が別のグループから少し違う形で提示された場合の集計には工夫が必要。
- ・車で来たい方への駐車 OK と NG の判断がばらばらだった。共通認識が必要。
- ・いろいろな参加者への対処方法をスタッフ間で共通しておいた方がよい。

第4章 第4次三鷹市基本計画第2次改定「1次案」に係る市民意見への対応について

No	テーマ	市民意見	基本計画の該当箇所		市の対応
1	「あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり」	ワイプでの地域情報の発信や、動画サイトでの川や駅の定点カメラの様子の配信など、インターネットをフル活用して日頃からの情報発信に努める。	第2部	第1_情報環境の整備	中長期的な視点で検討します。 災害時等における河川カメラの映像配信や、動画サイトにおける映像配信など、既存の仕組みにとらわれず、様々な媒体・仕組みを活用した情報発信の手法について、引き続き検討します。
			第3部	第4_災害に強いまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「5 情報伝達体制の強化」において、防災行政無線や情報通信技術の活用とともに、情報伝達に関する最新の知見・技術の研究を進め、多様な手段での情報伝達に努めます。
			第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見の趣旨を反映します。 「8 新たな時代に向けた広報戦略の検討」において、インターネットを活用した情報発信の強化に努めます。
2	「あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり」	郵便局との連携により、局員の配達ルート・ネットワークを活用した情報発信と見守り隊としての活動などを進める。	第5部	第1_地域福祉の推進	「健康福祉総合計画2022（案）」にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「第2部 第1 2（2）③」において、既に日本郵便（株）三鷹郵便局が市と協定締結済の三鷹市見守りネットワーク事業を引き続き推進します。
			第8部	第1_コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進	中長期的な視点で検討します。 情報発信に関しては、事業者や団体等とも連携を深めながら、既存の仕組みにとらわれず、様々な媒体・仕組みを活用について検討します。
3	「あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり」	コンビニ、病院、デイサービスセンターに情報スタンドを設置するなど、既存の施設を利用して情報を発信する。	第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見の趣旨を反映します。 「8 新たな時代に向けた広報戦略の検討」において、既存の地域資源を活用した情報発信について検討します。
4	「あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり」	防災行政無線が聞き取りにくい地域があることから、災害情報をケーブルテレビを活用して提供し、全家庭で視聴できるように環境を整備する。	第2部	第1_情報環境の整備	中長期的な視点で検討します。 事業者や団体等とも連携を深めながら、既存の仕組みにとらわれず、様々な媒体・仕組みを活用した情報発信の手法について、引き続き検討します。
			第3部	第4_災害に強いまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「5 情報伝達体制の強化」において、防災行政無線や情報通信技術の活用とともに、情報伝達に関する最新の知見・技術の研究を進め、多様な手段での情報伝達に努めます。
5	「あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり」	交番、コンビニ、郵便局、コミセン、駅などに365日、24時間対応可能な情報拠点（ポキちゃんスタンド）を設置する。	第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見の趣旨を反映します。 「8 新たな時代に向けた広報戦略の検討」において、既存の地域資源を活用した情報発信について検討します。

No	テーマ	市民意見	基本計画の該当箇所		市の対応
6	「あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり」	市政情報が市民に行き届いていないことや、情報の発信側と受け手側の意識が違うことを前提に、市民目線で、飛び込みでも電話でも対応できる「なんでも相談コーナー」を設置する。	第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見の趣旨を反映します。「8 新たな時代に向けた広報戦略の検討」において、市民ニーズを踏まえた情報発信の手法について検討します。
			第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。市民に分かりやすい情報の積極的な発信に努めます。相談・情報課では、市政に関する全ての相談を受け付けていますので、より一層の周知と相談しやすい環境の整備を進めます。
7	「あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり」	そこに行けば必ず必要な情報がとれるよう、公共的な施設に必ず情報発信（あるいはそのための場の設置）を義務づける。	第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見の趣旨を反映します。「8 新たな時代に向けた広報戦略の検討」において、公共施設などを活用した情報発信について検討します。
8	「あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり」	情報提供にあたっては、外国人、子ども、障がい者、高齢者などあらゆる人が読んで理解できるよう、わかりやすくシンプルな表現に努める。	第1部	第1_国際化の推進	基本計画改定案にご意見の趣旨を反映します。「1 外国籍市民等の日常生活支援の充実」において、窓口等での情報提供にあたっては、外国籍市民等が理解できるよう、わかりやすい表現に努めます。
			第5部	第1_地域福祉の推進	「健康福祉総合計画2022（案）」にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。「第2部 第1 4（2）④」において、利用者の視点で、情報のバリアフリーの推進やアクセシビリティの向上によるわかりやすい福祉サービスの情報提供に努めます。
			第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。「8 新たな時代に向けた広報戦略の検討」において、誰にでも分かりやすい情報発信の手法について検討します。
9	「あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり」	情報提供に万能の手段はないことを前提に、電話連絡網、紙媒体からICTの活用まで、様々な情報提供手段を確保する。	第2部	第1_情報環境の整備	中長期的な視点で検討します。情報提供に関しては、既存の仕組みにとらわれず、様々な媒体・仕組みを活用した情報発信の手法について、引き続き検討します。
			第3部	第4_災害に強いまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。「5 情報伝達体制の強化」において、情報伝達に関する最新の知見・技術の研究を進める中で、多様な情報提供手段の確保と状況に応じた情報伝達の方法を検討・実施していきます。
			第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見を反映します。「8 新たな時代に向けた広報戦略の検討」において、既存の広報媒体のみならず、さまざまな情報提供の手法について検討します。
10	「あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり」	無料WiFi、無料充電スタンド、ミラーサーバーの配備など、市内全域のいたるところで情報を取りやすくし、情報の断絶を防ぐ。	第2部	第1_情報環境の整備	中長期的な視点で検討します。現在、災害時における情報共有や情報収集と平時の利活用のため、三鷹駅等において、Wi-Fiサービスを提供しています。引き続き、災害時における情報共有や、平時において利用しやすいWi-Fi環境などの整備を進めるとともに、情報収集しやすい環境づくりに向けた検討を進めます。

No	テーマ	市民意見	基本計画の該当箇所		市の対応
11	「あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり」	既存インフラを活用した情報提供に努めるとともに、郵便局・宅配業者と連携による定時・定点での情報交換のしくみを構築する。	第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見の趣旨を反映します。「8 新たな時代に向けた広報戦略の検討」において、市内の事業者等と連携した情報交換について検討します。
12	「あらゆる人に必要な情報が行き渡るまちづくり」	情報通信手段が途絶えた場合、最終的に頼れるのが掲示板であることを踏まえ、誰にでもわかりやすい表示とする。	第3部	第4_災害に強いまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。「5 情報伝達体制の強化」において、防災・減災のまちづくりにおける地域コミュニティの重要性を踏まえ、掲示板の活用を含め日頃からの地域活動と防災意識の啓発を支援していきます。
			第8部	第1_コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進	中長期的な視点で検討します。掲示板が地域における有効な情報共有伝達手段であることを踏まえ、住民協議会や町会・自治会等が所有する掲示板の維持への支援を検討します。また、わかりやすい表示となるよう対応を検討します。
13	「互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり」	平常時の挨拶や関わりが有事の際にも効果があるという視点で、世代を超えて共助のできるコミュニティづくりを進める。	第5部	第1_地域福祉の推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。「2 災害時避難行動要支援者支援事業の推進」において、地域ケアネットワーク推進事業や災害時避難行動要支援者支援事業の推進をとおして世代を超えた共助のまちづくりを進めます。
			第8部	第1_コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。「1 コミュニティ活動の新たな展開に向けた取り組み」において、コミュニティ創生による多世代交流や地域のつながりを深める取り組みを通じて、地域の絆が深まるようコミュニティづくりを推進します。
14	「互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり」	大人も子どもも、共助・共生について学ぶ機会を積極的に増やす。	第1部	第1_国際化の推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。外国籍市民等の増加を見据え、市民の多様な文化等を互いに認め合い尊重し合う多文化共生意識の醸成に向け、三鷹国際交流協会と連携しながら、講座などの啓発に取り組みます。
			第5部	第1_地域福祉の推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。近隣でお互いに助け合う「共助」は、具体的な事業で体感することが有効であると考えますので、それらの事業を「学ぶ機会」と捉え、地域福祉をはじめとする事業の周知を積極的に行っていきます。
15	「互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり」	電線の地中化をはじめとしたバリアフリー化はソフト面でのコミュニティ形成に必須の下地であるとの視点で、安全・安心なインフラづくりを進める。	第3部	第1_安全で快適な道路の整備	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。バリアフリーの道路づくりとして、主要路線の無電柱化を推進します。

No	テーマ	市民意見	基本計画の該当箇所		市の対応
16	「互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり」	まちづくりの中心、市民のコミュニケーションの中心の役割を担えるよう、コミュニティセンター機能の見直しを行う。	第8部	第1_コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進	中長期的な視点で検討します。 コミュニティ・センターの担う役割等については、社会状況の変化等を踏まえ、市民のニーズを把握しながら、指定管理者である住民協議会と協議し、より利用しやすい施設となるよう検討します。
17	「互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり」	三鷹のブランド力を高めるために、市民による魅力の発掘など、市民がまちづくりに参加できる仕組みを構築する。	第8部	第1_コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見を反映します。 「3 市民参加手法の検討・推進」において、三鷹のブランド力向上や魅力発掘、まちづくりへの参加につながる新たな仕組みづくりに取り組みます。
18	「互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり」	地震、水害、火災などすべての災害において、取り残される人がいないような防災・減災対策を進める。	第3部	第4_災害に強いまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「1 災害に強い基盤整備事業等の推進」において、地域防災計画の適切な見直しを行いながら、自助、共助、公助による防災・減災対策の取り組みを進めていきます。
19	「互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり」	生活、災害、防犯、イベントなどの多様な情報を、スマホ通知、ケーブルテレビ、専用スピーカーなどの多様な手段で、多言語配信するデジタル回覧板を設ける。	第2部	第1_情報環境の整備	中長期的な視点で検討します。 現在、安全安心メールで「防犯」「防災」「環境」情報の配信を行っています。イベント情報なども含めた多様な情報を収集しやすい環境づくりに向けた検討を進めます。
			第3部	第4_災害に強いまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「5 情報伝達体制の強化」において、日頃の地域コミュニティのネットワーク等を活用して、すべての市民に情報が伝達できる方法を検討します。
			第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「8 新たな時代に向けた広報戦略の検討」において、多言語による情報発信の手法について検討します。
20	「互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり」	新たな町会・自治会の発足を支援するとともに、助けたい人と助けてもらいたい人を結ぶ新たな地域ネットワークを構築する。	第5部	第1_地域福祉の推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「1 地域ケアネットワーク推進事業の充実と発展」において、地域の様々な団体・関係機関等のつながりづくりと地域特性に対応した活動の発展と拡充を図ります。
			第8部	第1_コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進	中長期的な視点で検討します。 新たな町会・自治会等の発足に向けては、手続等も含め、積極的に支援します。新たな地域ネットワークについては、地域における現在あるネットワーク機能等の検証を行いつつ、関係部署との連携を図りながら検討します。
21	「互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり」	駅前再開発についての積極的な情報開示に努めるとともに、整備にあたっては、駐輪場の確保、道路の拡幅、歩道レンガのフラット化などに配慮する。	第2部	第6_再開発の推進	基本計画改定案にご意見の趣旨を反映します。 HPや広報で適宜再開発に関する情報を発信していきます。また、「1 三鷹駅前地区再開発の推進」において、安全で快適な歩行空間の確保と交通環境の向上を目指し、検討を進めます。

No	テーマ	市民意見	基本計画の該当箇所		市の対応
22	「互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり」	円滑な住民間での助け合いを支援するため、自分でできることを発信し、それを気軽に利用できるマッチングシステム（提供できるマーク、お手伝いチケット、ヘルプカード、ちょっとサポーター）を構築する。	第5部	第1_地域福祉の推進	地域ケアネットワークの中には、ちょっとした困りごとをご近所で助け合うしくみなどに取り組んでいる地域もありますが、他の地域がそのような取り組みを一律的に実施することは難しいため、関係機関等が実施している、ご意見にあるようなしくみと類似した事業等と連携していくことについて、検討していきます。
23	「互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり」	街区ごとの避難タイミングの相違や、時間・状態による対応の相違などを踏まえ、地域内での申し合わせや、細かな避難情報の周知などによる災害時の情報伝達方法を見直す。	第3部	第4_災害に強いまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「3 自主防災組織及び各種コミュニティによる地域防災力の強化」において、災害時に確実な情報伝達が行えるよう、自主防災組織を中心とした実践的な防災訓練等の実施による地域防災力の向上とともに、多層的な情報伝達方法の確保と確実な情報伝達の体制整備を図ります。
			第5部	第1_地域福祉の推進	災害時避難行動要支援者支援事業では名簿提供協定締結先の各団体内（町会・自治会等）で情報伝達方法の検討をする一方で、必要に応じて各団体が防災課に相談し対応しています。
			第8部	第1_コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進	中長期的な視点で検討します。 災害時の情報伝達の方法については、住民協議会、町会・自治会等及び関連部署と連携を図りながら、より有効な災害時の情報伝達の方法を検討していきます。
24	「互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり」	災害に備えた、防災無線、電気、水道、道路などのインフラのフェイルセーフ化を進めるとともに、バックアップ手段を確保する。	第3部	第4_災害に強いまちづくりの推進	中期的な視点で検討します。 防災・減災の総合的なまちづくりを推進する中で、災害に強いインフラの整備や災害発生時のバックアップのあり方を検討していきます。
			第3部	第1_安全で快適な道路の整備	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「1 主要幹線道路の整備と周辺のみちづくりの推進」において、「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）」に基づき、都市計画道路網の整備を推進し、道路ネットワークの形成による交通環境や防災性の向上を図り、みちづくりとまちづくりを一体的に進めます。
第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	中期的な視点で検討します。 防災都市の実現に向けたハード面での総合的な取り組み等をまとめた「防災都市づくり方針（仮称）」を策定する中で、具体的に検討していきます。			
25	「互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり」	スローガン、ポスター、LINEスタンプ、あいさつマイスター認定などによって、「挨拶のできるまち三鷹」運動を普及させる。	第5部	第1_地域福祉の推進	中期的な視点で検討します。 地域共生社会の実現を目指す手段の一つとして検討して参ります。
			第8部	第1_コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進	中長期的な視点で検討します。 ともに支え合う地域社会を生み出すため、「コミュニティ創生」関連事業の手段の一つとして検討します。

No	テーマ	市民意見	基本計画の該当箇所		市の対応
26	「互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり」	道路の拡幅と人・自転車・自動車の分離、コミュニティバスの小型化による拡充、周辺自治体との情報を含めた連携など、共生のまちづくりの視点でインフラ整備を進める。	第3部	第1_安全で快適な道路の整備	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。意見の趣旨を踏まえ、人や車、自転車等すべての通行者にとって安全で快適な都市空間・歩行空間の整備を推進します。
			第3部	第5_都市交通環境の整備	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「1 みたかバスネットの再構築」において、コミュニティバスの運行体系をを抜本的に見直します。また、小型車両の導入については、利便性の向上につながるよう、今後の事業を進める中で検討していきます。
			第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	中長期的な視点で検討します。 意見の趣旨を踏まえ、隣接する自治体や東京都などと連携を図りながら、高環境・高福祉のまちづくりを進めていきます。
27	「互いに認め合い、互いに支え合う共生のまちづくり」	共生に向けた「つながる情報」として、日常、気軽に相談できる窓口を増設・周知するとともに、緊急時の際のケーブルテレビやコンビニを活用した情報提供などに取り組む。	第2部	第1_情報環境の整備	中長期的な視点で検討します。 デジタルを活用することで、いつでも気軽に相談ができる窓口の実現を目指して検討します。 また、事業者や団体等との連携を深めながら、既存の仕組みにとらわれず、様々な媒体・仕組みを活用した情報の提供について、引き続き検討を進めます。
			第3部	第4_災害に強いまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「5 情報伝達体制の強化」において、日頃の地域コミュニティのネットワーク等を活用して、すべての市民に情報が伝達できる方法を検討します。
			第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見の趣旨を反映します。 「8 新たな時代に向けた広報戦略の検討」において、既存の広報媒体のみならず、地域資源を活用した情報発信について検討します。
			第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	広聴・相談・苦情等を行政サービスの改善につなげる仕組みの構築を検討します。
28	「周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり」	地域環境を良くする人間関係づくりのきっかけとして、「三鷹のあいさつ」を公募で決定する。	第8部	第1_コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進	中長期的な視点で検討します。 ともに支え合う地域社会を生み出すため、「コミュニティ創生」関連事業の手段の一つとして検討します。

No	テーマ	市民意見	基本計画の該当箇所		市の対応
29	「周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり」	高齢者と保育園、地域と祭り、学校同士のつながりなど、世代と地域を超えたコミュニティづくりを進める。	第5部	第1_地域福祉の推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 各地域ケアネットワークが行っている地域特性に応じた多様な活動の中で、多世代、さまざまな団体とのつながりづくりを進めており、「1 地域ケアネットワーク推進事業の充実と発展」において、市はそれを支援します。
			第6部	第1_子どもの人権の尊重	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「1 地域ぐるみの子ども・子育て支援の推進」において、地域ぐるみで子どもの成長を支える環境づくりを進めます。
			第8部	第1_コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「1 コミュニティ活動の新たな展開に向けた取り組み」において、各住民協議会、町会・自治会等をはじめ、地域で活動している様々な団体等との連携・協力によるコミュニティづくりを推進します。
			第8部	第1_コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進	「教育ビジョン2022（案）」にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「第5-目標V-17 地域社会の拠点としての学校づくりの推進」を最重点施策として取り組みます。
30	「周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり」	地域間交流につながるよう、地域とイベントの特集など、広報でコミュニティ間の橋渡しを行う。	第8部	第1_コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進	中長期的な視点で検討します。 広報については、ホームページ等を通じ積極的な発信により、地域の魅力を伝えるよう取り組みます。
			第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「8 新たな時代に向けた広報戦略の検討」において、民間ソーシャルメディアの更なる活用など、地域間交流の活性化に資する情報発信の手法を検討します。
31	「周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり」	防災無線の放送内容の聞き直しができることを周知徹底するなど、全市民へのタイムリーな情報提供に取り組む。	第2部	第1_情報環境の整備	「みらいを創る三鷹デジタル社会ビジョン（仮称）（案）」にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 防災無線の内容については、自動でホームページに掲載する仕組みを導入しています。「みらいを創る三鷹デジタル社会ビジョン」（仮称）において、災害時等に最新の情報をタイムリーに発信できるような仕組みや体制について引き続き検討を進めます。
			第3部	第4_災害に強いまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「5 情報伝達体制の強化」において、防災行政無線の聞き直しができる自動電話応答サービスについて、広報みたかや地域の防災訓練、防災出前講座等を通じて一層の周知を図ります。
32	「周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり」	市民の不満・不安・疑問を受け付ける窓口を設置するなど、行政と市民のバリアフリー化を進める。	第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「7 市民サービスの新たな展開に向けた検討」において、市民に身近で利便性の高い行政機能を検討する中で、相談窓口の分散ネットワーク化など多様な視点から取り組みを進めます。
			第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 情報公開総合窓口（相談・情報課）の一層の周知を図るとともに、相談内容を担当部課に確実に伝達し、広聴・相談・苦情等を行政サービスの改善につなげていきます。

No	テーマ	市民意見	基本計画の該当箇所	市の対応
33	「周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり」	ベビーカー・自転車・歩行者・車いすの人も安心して往来できるよう、安全な歩道の整備、電線の地中化を進める。	第3部 第1_安全で快適な道路の整備	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。バリアフリーの道路づくりとして、主要路線の無電柱化を推進します。
34	「周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり」	市からの一方的な情報提供とはならないように、また、その人にあった受信方法にも配慮した情報の双方向のやりとりを進める。	第2部 第1_情報環境の整備	「みらいを創る三鷹デジタル社会ビジョン(仮称)(案)」にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。情報発信については、双方向コミュニケーションが図れる仕組みを検討するとともに、地域課題の解決に向け、ワークショップ(アイデアソン)の実施など、新たな市民参加についても検討を進めます。
			第8部 第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見の趣旨を反映します。「8 新たな時代に向けた広報戦略の検討」において、最新の技術革新の動向を注視しながら、市民ニーズを踏まえた双方向の情報発信の手法について検討します。
35	「周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり」	駅前再開発ビル内の施設整備、元気創造プラザへのカフェの設置などによって、多様な世代が気軽に集える場所をつくる。	第2部 第6_再開発の推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。「1 三鷹駅前地区再開発の推進」において、活性化の拠点として多くの市民の皆様が集い、様々な世代の方が一緒に過ごすことができる空間を創出できるよう検討します。
			第7部 第2_市民スポーツ活動の推進	元気創造プラザへのカフェの設置等については、今年度から来年度にかけて行う予定の「総点検」の取り組みにおいて、多くの市民の皆様からのご意見やご議論等を踏まえて、検討していくこととします。
36	「周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり」	シニア世代、子育て世代、障がい者など、ターゲットごとに手法の異なる防災訓練を実施する。	第3部 第4_災害に強いまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。「3 自主防災組織及び各種コミュニティによる地域防災力の強化」において、市民のニーズに応じた防災出前講座やミニ防災訓練の中で、状況に応じた実践的な訓練等を実施していますが、避難者の特性に特化した防災訓練等の実施についても検討していきます。

No	テーマ	市民意見	基本計画の該当箇所	市の対応
37	「周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり」	災害に備えた安定したインフラ整備、食料や備品の備蓄、情報提供、医療施設、テロ対策など、安心・安全に配慮したまちづくりを進める。	第3部 第1_安全で快適な道路の整備	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「1 主要幹線道路の整備と周辺のまちづくりの推進」において、「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）」に基づき、都市計画道路網の整備を推進し、道路ネットワークの形成による交通環境や防災性の向上を図り、みちづくりとまちづくりを一体的に進めます。
			第3部 第4_災害に強いまちづくりの推進	中期的な視点で検討します。 「地域防災計画」を推進し、災害に強いまちづくりの取り組みを進めていきます。
			第3部 第4_災害に強いまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「1 災害に強い基盤整備事業等の推進」において、地震に関する地域危険度等が高い地域について、狭あい道路等の拡幅などにより防災機能の向上を図ります。
			第8部 第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「1 防災都市づくりの検討とファシリティ・マネジメントの推進」において、さまざまな機能が連携・融合する総合的な防災都市づくりに向けた検討を進めます。
38	「周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり」	農地と宅地のバランスの配慮や外環ジャンクションへの対応、バリアフリー化など、良好な住環境に配慮したまちづくりを進める。	第2部 第2_都市型農業の育成	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「1 農地制度の活用などによる農地の保全」において、市内の都市農地は、新鮮で安全な農産物を市民に提供するとともに、防災、自然・緑の景観、環境の保全や浄化など多面的機能を有しており、これら農地の持つ多面的機能を活用し、快適な都市環境の実現を目指します。
			第2部 第6_再開発の推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「4北野の里（仮称）のまちづくりの推進」において、ジャンクション周辺の土地利用の誘導及び農のある風景の保全に向けて検討し、良好な住環境に配慮したまちづくりを進めます。
			第3部 第3-1_住環境の改善	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。 「1 都市計画制度の活用による良好な都市環境の形成（用途地域等の見直し）」において、住環境と産業（商・工・農）が調和した良好な都市環境の形成を推進します。 また、「3 バリアフリーのまちづくりの推進」において、すべての人がいきいきと暮らせるバリアフリーのまちづくりを推進します。

No	テーマ	市民意見	基本計画の該当箇所		市の対応
39	「周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり」	市民参加によって、市民に届くような情報の相互発信を進める。	第2部	第1_情報環境の整備	「みらいを創る三鷹デジタル社会ビジョン(仮称)(案)」にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。情報発信については、双方向コミュニケーションが図れる仕組みを検討するとともに、地域課題の解決に向け、ワークショップ(アイデアソン)の実施など、新たな市民参加についても検討を進めます。
			第8部	第1_コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見の趣旨を反映します。「3 市民参加手法の検討・推進」において、収集した市民意見の見える化や情報発信の工夫などにより、分かりやすい情報共有のあり方を検討します。
			第8部	第2_「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立	基本計画改定案にご意見の趣旨を反映します。「8 新たな時代に向けた広報戦略の検討」において、最新の技術革新の動向を注視しながら、市民ニーズを踏まえた双方向の情報発信の手法について検討します。
40	「周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり」	市職員だけでは市民全員を守ることにはできないことから、有事に強い情報提供体制を構築し、情報の補足のための地域リーダーを育成する。	第3部	第4_災害に強いまちづくりの推進	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。「3 自主防災組織及び各種コミュニティによる地域防災力の強化」において、自主防災組織を中心とした地域防災リーダーや小中学校を核として活動している団体等の地域防災力の向上を進めていきます。また、「5 情報伝達体制の強化」において、防災行政無線や情報通信技術の活用とともに、情報伝達に関する最新の知見・技術の研究を進め、多様な手段での情報伝達に努めます。
41	「周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり」	電柱の地中化、水遊びのできる公園の増加、街路樹・電灯の整備、コミュニティバスの充実などのインフラを充実する。	第3部	第1_安全で快適な道路の整備	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。バリアフリーの道路づくりとして、主要路線の無電柱化を推進します。
			第3部	第2_緑と水の快適空間の創造	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。「3 災害に強く安全で安心な特色ある公園・緑地の整備」において、平成30年度に策定した「三鷹市公園・緑地の適切な活用に向けた指針」に基づき、水遊びのできる公園の整備も含め公園・緑地に対する多様な市民ニーズへの対応の中で検討していきます。
			第3部	第5_都市交通環境の整備	基本計画改定案にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。「1 みたかバスネットの再構築」において、コミュニティバスのさらなる利便性の向上につながるよう、運行本数や間隔等の見直しを検討します。
42	「周辺環境と暮らしが調和した高環境のまちづくり」	学校教育の場での子どもと高齢者の交流など、高齢者が社会参加できる場の提供を支援する。	第5部	第2_高齢者福祉の充実	「健康福祉総合計画2022(案)」にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。「第2部 第2 2(2)①」において、高齢者が地域における福祉活動の担い手として活躍できる場の拡充に取り組んでいきます。
			第6部	第3_魅力ある教育の推進	「教育ビジョン2022(案)」にご意見またはその趣旨が盛り込まれています。「第5-目標Ⅱ-6 三鷹らしい特色ある教育活動の推進と多様な学習機会の提供」において、コミュニティ・スクールの特色を生かし、高齢者との交流など、地域の伝統や文化に触れることで、郷土三鷹に対する愛着や誇りをはぐくむ「三鷹地域学習」を進めています。